

令和5年度大学教育再生戦略推進費  
「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」の申請について

代表校名 (連携大学名)	名古屋大学 (岐阜大学、浜松医科大学、名古屋市立大学、藤田医科大学、愛知医科大学、名城大学)計7大学
事業名 (全角20字以内)	東海がん専門医療人材養成プラン

1. 全体計画

(1) 事業の構想

① 事業の概要

東海がん専門医療人材養成プラン（東海がんプロ）は、次世代のがん対策の基盤を担うがん専門医療人を養成する教育プログラムを大学間連携によって開発・実施する。最も重要な特色は愛知県・静岡県・岐阜県の東海3県に医学部を置く全6大学を含む7大学の連携であり、日常診療で培われた強固な連携と人的交流を基盤に、各大学の教育リソースを強みとして有機的に共有しながら、東海地域の事情やニーズに適った人材を養成する。「東海がんプロ」を円滑に進めるために、東海がんプロ協議会を新たに構築し連携体制を確保・強化する。専用の履修記録管理システムによって地域にしながら大学病院と同じレベルの学習環境を整備することで大学・地理的条件を超えた連携を深める。「東海がんプロ」期間中に全体で25コースを立ち上げ、テーマ①②③の人材をそれぞれ435名（大学院255名）、70名（同30名）、170名（同130名）を養成する。

② テーマごとの課題と対応策

テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成

課題・対応策

【専門人材不在の解消】

・東海3県（愛知県、静岡県、岐阜県）は日本全人口の10%（2021年総務省）及び工業出荷額の22%（2020年経産省）を占めるが、在籍する放射線腫瘍専門医・病理専門医・ペインクリニック専門医・がん薬物療法専門医・臨床遺伝専門医はいずれも10%以下（それぞれ9.0%、9.3%、7.4%、9.5%、9.4%）に過ぎない（令和5年4月各学会HPより）。東海地域においてこれらの人材養成が必須の課題であることは明らかである。東海3県に医学部を置く全6大学を含む7大学が参画して、その全ての大学にこれらの専門人材を養成する大学院コースとインテンシブコースを設置する。東海地域全体で専門人材不在の解消に取り組む。

【チーム医療教育の体系的プログラム】

・がん患者のQOL向上や終末期医療には多様なニーズがあり、さまざまな職種の専門医療人がチームとして対応しなければならない。しかし、これまで多職種チーム医療のスキルを体系的に学修することは困難であった。「東海がんプロ」ではチーム医療を日々実践する専門家による講義と実習、グループワークによるチーム医療教育で構成される教育プログラムを新たに開発し、多職種チーム医療に対応できる人材を養成する大学院コースを名古屋大に設置する。  
 ・がんの支持療法の進歩によって多様な薬物治療が可能となった現在、多職種連携のなかで薬剤師の役割は特に重要である。名城大は参画大学のなかで薬学部をもつ唯一の大学として、学位取得後も地域に定着してチーム医療を担う薬剤師を養成する大学院コースを設置する。

【学際領域の体系的プログラム】

・新しい分子標的治療薬や複雑な免疫療法の登場によって、がん薬物療法の適正な実施には学際領域に関する豊富な知識と正確な理解が不可欠となっている。一方、がん関連の学際領域を複数領域に跨って学修することは自習以外には困難であった。「東海がんプロ」では、その豊富な人材と教育基盤を活用して学際領域を体系的に学修できる教育プログラムを構築し、医学部を置く6大学全てに大学院コースを設置する。

【がん専門医療人の地域への定着】

・放射線治療医・病理診断医・ペインクリニック専門医・がん薬物療法等のがん専門医療人材の地域への定着を図るため、名古屋大で並走する地域医療の教育事業「濃尾+A」と連携する。地域への定着には、地域医療への興味や学術的探究心、地域に定着して貢献する意欲が必須であり、それらを涵養するために濃尾+Aと有機的に連携する。

【教育環境の整備】

・放射線治療や核医学治療、神経ブロックによる痛みの治療、病理診断を担う人材養成を促進するために、事業年度初期にそれらの教育環境を整備する。

## テーマに関する強み

### 【豊富な人材と充実した教育基盤】

・代表校の名古屋大では、年間200以上の特論、13コースの特徴あるプログラム(特定のテーマにそった連続講義で構成される学内教育プログラム)、70コース以上のベーシックトレーニング(幅広い分野の研究手法を大学院生が習得できるプログラム)を開講している。これらの教育基盤と本事業では豊富な人材養成のノウハウと既存の仕組みを有効に活用する。

・名古屋大はがん診療連携拠点病院及びがんゲノム医療中核拠点病院として東海地域のゲノム医療の中核として個別化医療を先導している。特に第1期がんプロで確立した臓器横断的・診療科横断的ながん診療体制を基盤として、腎臓学・循環器学・老年学・内分泌学等などの学際領域に多くの研究業績があり、診療ガイドライン作成にかかわった人材も豊富である。名古屋大で行われている地域医療の教育事業 濃尾+Aに加え、藤田医大では腫瘍循環器学分野の産学連携研究が行われており、浜松医大では地域家庭医療学講座において地域医療に貢献する総合診療専門医が養成されている。いずれの大学も総合病院として包括的な診療体制が整備されており、これらを強みとして学際領域の教育に有効に活用する。

### 【多職種チーム医療の教育】

・名古屋大の総合保健学専攻博士前期課程は平成19年度よりトータルプランナー(THP)コースを開講しており、これまでに約200名を学内認定した実績がある。少子高齢社会を包括的に支える健康増進モデルを開発・推進する人材育成プログラムである。特に少人数多職種のグループワークによるチーム医療教育を特徴としており、THPコースで長年培われた多職種チーム医療教育のノウハウを応用して、「がんTHP」コースとして大学院コースとインテンシブコースを新たに設置する。大学院コースには東海国立大学機構として法人統合した岐阜大の大学院生も含む。インテンシブコースは「東海がんプロ」参画全大学の履修生を対象とする。

### 【痛みの治療・ケアと放射線治療の教育基盤】

・名古屋市立大では国立がん研究センターと連携協定を結び精神腫瘍学分野に関する連携大学院を設置している。愛知医科大(疼痛医学講座)及び藤田医科大(緩和医療学講座)には緩和医療専門の講座が設置されている。浜松医大では高精度放射線治療及び核医学治療を担う放射線治療専門医(放射線腫瘍学講座)、ゲノム医療を担う病理専門医(腫瘍病理学講座)を育成する体制と実績がある。これらの大学のもつ強みを大学間連携によって共有・活用する。

## テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成

### 課題・対応策

#### 【がん予防推進の体系的な教育プログラム】

・東海地域にはこれまでなかった体系的な学際教育プログラムを構築して名古屋大及び浜松医大に大学院コースを設置する。データサイエンスやメディカルAIに基づいてがん予防を推進できる人材を養成する。

#### 【がん医療のメディカルAI人材養成】

・名古屋大ではメディカルAIを学ぶ人材養成事業AI-MAILsが並走しており、最先端のAI技術を駆使して医療ビッグデータや大規模疫学データを利用する研究を推進できる専門人材の育成が行われている。がんゲノム医療中核拠点病院としてがんゲノム医療を推進する人材や、がん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院として広くがん医療の専門人材の養成も行われている。「東海がんプロ」とこれらの人材養成事業が有機的に連携することで、さらに高いレベルでがん予防の推進を担うメディカルAI人材養成へと繋ぐ。

#### 【がんの遺伝医療を担う人材養成】

・臨床遺伝学を担う人材の多くは、がん以外の難病・周産期・小児のサブ領域に高い関心をもつが、今後のがんゲノム医療・がんの予防・未発症者サーベイランス・先制医療の推進には腫瘍の領域にも十分に対応できる遺伝医療の人材が必要である。「東海がんプロ」ではがん(遺伝性腫瘍)の視点を重視した臨床遺伝学の教育プログラムを、診療の現場でがんの遺伝医療を担っている医師や医療者にも学修機会を提供するために、名古屋大にインテンシブコースを新たに設置する。がん医療やがん予防のニーズに応えられる臨床遺伝専門医やカウンセラーを養成するとともに、遺伝医療にかかわる多くの医療従事者の遺伝医療へのリテラシーを高める。

#### 【がんサバイバーを支える人材養成】

・がん治療成績の向上に伴い、がんと共生するがん経験者(サバイバー)の支援はますます重要な課題となっている。「東海がんプロ」では、テーマ①の事業と連動しながら、大学間連携と多職種チーム医療教育の豊富な実績を活かし、サバイバーを包括的に支える人材を養成する。

・藤田医大では臨床腫瘍学や遺伝性腫瘍の教育を強化した新しい認定遺伝カウンセラーの教育プログラムを構築し、がんサバイバーを支える人材を養成する。

## テーマに関する強み

### 【医療ビッグデータ・大規模疫学研究の実績】

・名古屋大の予防医学講座と愛知県がんセンター研究所(連携大学院)は大規模コホート研究や疫学研究、医療ビッグデータを用いた多くの先進的な研究実績がある。「東海がんプロ」では、これらを基盤に体系的な学際的大学院コースを構築し、がん予防を推進する人材を養成する。令和5年3月には、遺伝要因がピロリ菌感染の胃がんリスクを高めることを解明する画期的な研究成果を発表した(DOI:10.1056/NEJMoa2211807)。

### 【データサイエンスとメディカルAI人材養成の基盤】

・名古屋大のAI-MAILs、臨床研究の支援部門(ARO)である先端医療開発部データセンター及び附属病院メディカルITセンター(MIT)が行う教育事業、藤田医大のがん医療研究センターデータ解析部門といったデータサイエンスやメディカルAI人材の養成基盤が整備されている。浜松医大の次世代創造医工情報教育センターは、地域の行政、企業、教育機関と連携して、データサイエンスやAI技術を基盤としてがん予防など社会問題の解決に挑戦する人材を育成している。

### 【小児・AYA世代のがんの診療体制】

・名古屋大は小児がん拠点病院として、院内小児がん治療センターが中心となり、AYA支援チーム・長期フォローアップ外来(2021年受診患者実数19名)・小児がん相談(同523件)・患者会活動支援・院内学級(令和4年12月25名在籍)・マクドナルドハウス整備等、小児・AYA世代のがんの医療体制が整備されている。名古屋大と岐阜大はそれぞれ愛知県と岐阜県のがん生殖医療ネットワークの事務局として妊孕性温存に関する患者・家族の支援にも積極的に取り組んでおり、これらの体制を小児がん・AYA世代がんの教育に活用する。

### 【臨床遺伝学の教育基盤】

・藤田医大は東海地方で唯一の認定遺伝カウンセラー養成課程を設置する大学院である。これまでの認定遺伝カウンセラーの輩出実績に加え、大学敷地内に遺伝性腫瘍の遺伝カウンセリングを行う臨床遺伝科やがん教育セミナー、がんセンターなどの教育環境が整備されている。  
・名古屋大では臨床遺伝に関する症例検討会を毎月行い学外にも公開している。「東海がんプロ」で設置するインテンシブコースは、この症例検討会を発展拡充させて開講する。

## テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

### 課題・対応策

#### 【創薬と新治療開発に向けて】

・基礎研究の段階から臨床導入を強く意識して創薬や新治療を開発できる人材を養成することを主眼に6大学に大学院コースを設置する。  
・人を対象とする臨床研究の適正実施に向けて、研究公正・生命倫理・情報セキュリティ・利益相反に関する教育を必須とする。また、jRCTに登録された特定臨床研究数とがん関連の臨床試験数を評価指標とする。  
・参画大学間のネットワークや東海がんプロセミナーを活用して、大学間で研究情報の共有と集約、若手研究者の相互交流を図るなど有機的な連携体制を構築する。  
・創薬及び新治療の開発には、データサイエンスやメディカルAIのリテラシーが不可欠であるため、教育プログラムにデータサイエンスやシステム生物学を取り入れるなど、テーマ②の事業と連動しながら人材養成を進める。

#### 【先端治療に精通する薬剤師の養成】

・がんの治療成績が向上するとともに、チーム医療のなかの薬剤師の役割は標準治療の実施や抗がん薬の適正使用という点においてますます重要になっている。特に最近臨床導入されたCAR-T療法や免疫チェックポイント阻害薬等の免疫療法は従来のがん薬物療法とは大きく考え方が異なる。診療でがん治療にかかわっている薬剤師を対象に、名城大に最先端のがん治療の知識・技術を学修できるインテンシブコースを設置する。各参画大学に所属する薬剤部の協力により、がん治療の高度・先進的な知識・技術を有する薬剤師を東海地域全体で養成する。

**テーマに関する強み**

**【臨床研究中核病院及び橋渡し研究支援機関】**

・名古屋大は臨床研究中核病院及び橋渡し研究支援機関として新たな治療法を開発する人材養成の環境が整備されている。臨床研究の支援部門(ARO)である先端医療開発部は多岐にわたる教育事業を行っており、「東海がんプロ」と連携してそれらの教育リソースを活用する。

**【先端医学研究を推進する環境】**

・岐阜大と名古屋大は東海国立大学機構として法人統合しており、同機構の糖鎖生命コア研究所(iGCORE)と連携してがんの病態解明と創薬研究における人材育成を行う。

・岐阜大では岐阜薬科大と連携した創薬研究を行っている。「東海がんプロ」に参画する医学部を置く6大学には薬学部がなく、この連携は特に薬学系研究者の養成において重要である。

・岐阜大では新薬治療開発を目的として、令和7年度に次世代がん医療講座を新たに設置する計画である。浜松医大の光先端医学教育研究センター及び国際マスメージングセンターでは先端的な医学研究が行われており、創薬研究を推進するための浜松医科大学創薬基盤システムが整備されている。藤田医大では、がん医療研究センターのデータ解析部門と連携して、臨床で得られるデータとその解析手技を俯瞰的に学び、臨床データドリブンな研究を構築できる人材養成の環境が整っている。「東海がんプロ」では、このような先端医学研究を推進する環境を教育に活用することができる。

**【最新のがん免疫療法の実施】**

・名古屋市立大は特にCAR-T療法に関して全国的に非常に高い治療実績を有しており、実習・カンファレンスを通じて先進的な教育研修の環境が整っている。名古屋大は独自のCAR-T細胞療法製造技術を有しており、国内で臨床試験を実施するとともに、タイ王国のチュラロンコン大学の臨床研究を支援している。このような最先端の免疫療法を実施する環境を強みとして、「東海がんプロ」の教育プログラムに活用する。

**(2) 達成目標・評価指標**

**アウトプット**

**【立ち上げ時期】** 令和6年4月(インテンシブコースは令和5年度中の開始を目指す)

**【実施コース数】**

名古屋大 7(大学院5)・岐阜大 3(大学院2)・浜松医大 4(大学院 3)・名市大 3(大学院 2)・藤田医大 4(大学院 2)・愛知医大 2(大学院 1)・名城大 2(大学院 1)

**【履修者数・修了者数】**

**テーマ① がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材の養成**

大学院8コース・インテンシブ 7コース 合計435名

		主な職種	R6	R7	R8	R9	R10	計
大学院	名古屋大	医師	8	8	8	8	8	40
		看護師・多職種	5	7	7	8	8	35
	岐阜大	医師	8	8	8	8	8	40
	浜松医大	医師	7	7	7	7	7	35
	名市大	医師	8	8	8	8	8	40
	藤田医大	医師	8	8	8	8	8	40
	愛知医大	医師	3	3	3	3	3	15
名城大	薬剤師	2	2	2	2	2	10	計255名
インテンシブ	名古屋大	医師・多職種	8	8	8	8	8	40
		看護師・多職種	5	5	10	10	10	40
	岐阜大	医師・多職種	4	4	4	4	4	20
	浜松医大	医師・多職種	4	4	4	4	4	20
	名市大	医師・多職種	4	4	4	4	4	20
	藤田医大	医師・多職種	4	4	4	4	4	20
	愛知医大	医師・多職種	4	4	4	4	4	20

**テーマ② がん予防の推進を行う人材の養成**

大学院3コース・インテンシブ 1コース 合計70名

		主な職種	R6	R7	R8	R9	R10	計	
大学院	名古屋大	医師・多職種	2	2	2	2	2	10	
		浜松医大	医師	2	2	2	2	2	10
	藤田医大	看護師・多職種	2	2	2	2	2	10	計30名
インテンシブ	名古屋大	医師	8	8	8	8	8	40	計40名

### テーマ③ 新たな治療法を開発できる人材の養成

大学院5コース・インテンシブ 1コース 合計170名

大学院	名	主な職種	R6	R7	R8	R9	R10	計
	名古屋大	医師・多職種	10	10	10	10	10	50
	岐阜大	医師	5	5	5	5	5	25
	浜松医大	医師	2	2	2	2	2	10
	名市大	医師	7	7	7	7	7	35
	藤田医大	医師	2	2	2	2	2	10
インテンシブ	名城大	薬剤師	8	8	8	8	8	40
								計130名
								計40名

【東海がんプロセミナー】最先端の学術情報を得るための学術シンポジウムを毎年度4回オンライン開催する(令和5年度2回)。毎回7大学より30~50名参加。各大学の事業報告会を兼ねる。

【市民公開講座】令和5年度1回,以降毎年2回実施 毎回80名参加 原則として対面で実施する。

【国際化に向けて】名古屋大は日本で初めてジョイント・ディグリープログラム(JDP)をアデレード大学、ルンド大学、フライブルク大学と開始しており、また国際的コンソーシアムである国際教育研究アライアンス(GAME)のメンバー校としてアルバータ大学、ボローニャ大学、香港中文大学、高麗大学、ミュンヘン大学、ノッティンガム大学と国際共同研究・国際共同教育を行っている。このネットワークを活用して世界最先端の知識をもって課題を解決できるがん専門医療人材を養成する。また、このネットワークを利用して行われる指導者養成(ファカルティ・ディベロップメント,FD)や教育プログラムの成果を履修生及び社会に還元する。

### アウトカム

(いずれの指標も事業開始時→事業終了時)

【東海3県の有専門資格者】専門医リタイア及び他県移動も考慮し5%増に設定(一部個別設定)

- 放射線治療専門医127→133名(又は新規取得6名)
- 病理専門医254→262名
- 分子病理専門医74→78名
- ペインクリニック専門医118→124名
- がん薬物療法専門医161→169名
- 臨床遺伝専門医162→186名(15%,又は新規取得30名)
- がん看護専門看護師93→98名
- がん専門薬剤師126→132名

【東海3県の医療】

大学及びがんセンターを除くがん診療連携拠点病院41病院の診療体制

- 常勤放射線治療医 76名→80名(+5%)
- 神経ブロックを行う麻酔科医師が常勤する病院数 21/41→23/41

全病院(大学及びがんセンターを含む)

- 放射線治療管理料(IMRT)/体幹部定位照射実施数(NDBより)年間4,757件/347件(令和2年度)→5,471件/399件(+15%)

【東海3県の個別化医療】保険診療下のがん遺伝子パネル検査年間実施件数

- 6大学(名大・岐大・浜松医大・名市大・藤田医大・愛知医大) 840件→1,092件(+30%)
- 名古屋大(がんゲノム医療中核)と17連携病院(愛知12,岐阜5病院) 938件→1,219件(+30%)

【東海3県の創薬と新治療開発】医薬品医療機器開発目的の特定臨床研究実施数(jRCTより)

- 6大学 163件(令和5年4月)→171件(+5%)
- がん関連 52件→57件(+10%)又は32%→40%

## (3) 事業の運営体制

### ①学内の運営体制

・名古屋大学医学系研究科が事業運営の中核を担い、新たに構築する東海がんプロ協議会を通じて参画大学が連携する。学内に新たにがんプロ推進室を設置して、専任事務補佐員を配置し、東海がんプロ協議会の活動及び学外との連携体制を確保する。

・名古屋大学では地域に貢献する医師養成事業 濃尾+A、AI人材養成事業AI-MAILs、卓越大学院プログラムCIBOGが並行しており、更に橋渡し研究支援機関及び臨床研究中核病院として創薬研究や臨床開発に関する人材養成、がんゲノム医療中核拠点病院としてがんゲノム医療に関わる人材養成、がん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院としてのがん医療に関わる人材の養成が行われている。「東海がんプロ」は、これらの人材養成事業の強力な連携体制のもとで、さらに高いレベルでがん専門医療人材の養成に繋げる。

## ②学外との連携体制

・新たに東海がんプロ協議会を構築し、大学間の連携体制を確保・強化することにより本事業を円滑に進める。東海がんプロ協議会は、各大学研究科長をはじめ本事業を担当する教員から構成され、各大学では研究科長のガバナンスによる体制を大学全体で確保したうえで、履修計画の策定・実施・評価等を統括管理する。東海がんプロ協議会には他に医師会役員、愛知県がんセンター院長を招聘し地域との連携を深める。

・学術シンポジウムと事業報告会を兼ねた東海がんプロセミナーを年4回の東海がんプロ協議会に合わせて開催する。東海がんプロセミナーによって、高い品質の教育を継続的に提供できるように教育のクオリティコントロールに努める。

・本事業の参画大学はいずれも第1期及び第2期がんプロで連携しており、第3期がんプロ期間中も継続的に人的交流を深めながら、東海オンコロジーセミナーをはじめ様々な形で地域の実地医療者を対象にがん専門医療人材の教育を実施してきた。本事業は、これまでに培われた大学間の強固な連携と人的交流を基盤としている。

・名古屋大と岐阜大は東海国立大学機構として法人統合しており、単位互換制度が利用できる。また、両大学は地域医療の教育事業「濃尾+A」でも連携している。

・創薬科学領域において名古屋大学医学系研究科と名城大学薬学部は大学院レベルでカリキュラム相互互換制度を導入している。本事業においても名城大学は薬剤師教育を担当する。

・本事業の参画大学とは授業料の不徴取協定を締結したうえで大学院特別聴講生(名古屋大学通則第49条～)の制度を利用する。

## ③評価体制

・全大学の研究科長及び担当教員が構成員となる東海がんプロ協議会を構築し、年4回定期的に会議を開催する。事業計画の実施状況、特に人材養成数を評価するなど相互に評価する。

・利益相反状態にない学外有識者による外部評価委員会を構築し、年1回定期的に本事業の評価を受ける。東海がんプロ協議会は評価結果に基づき速やかに事業計画を見直す。外部評価委員会の構成員は、がん関連学会の理事長経験者(医師)、看護系大学の教授(看護師)、大学病院薬剤部の教授(薬剤師)、がん患者団体の推薦を受けた代表者、医療系ジャーナリスト、東海地域の保健行政に関わる者など10名程度で構成する。

・これら自己評価と外部評価による検証結果を事業報告書にまとめ専用ウェブサイトで公開するとともに、全国の大学関連部門及び東海地域の医療医機関・自治体に配布する。

・補助金に見合う成果が得られない参画大学に対して計画変更を含めた対応を行う。

・履修生・修了者にアンケートを行い、そのフィードバックを得る。

## (4) 成果の普及や事業の継続

### ①成果の普及

・学術シンポジウムと事業報告会を兼ねた東海がんプロセミナーを、参画大学が主催持ち回りで開催する。東海3県の看護及び薬学系の大学に広く参加を呼びかけ、年4回各半日間オンラインで実施しオンデマンド配信する。参画大学間の交流機会になるとともに、本事業の人材養成モデルの他大学への普及が期待できる。

・がん予防やサバイバーシップケアに関する市民公開講座を参画大学が主催持ち回りで開催する。一般向けを対象に、年2回各半日間対面で実施し、一部をウェブサイトで公開する。がん予防やがんサバイバーシップケアの概念が広く社会に普及することが期待できる。

・本事業のための専用ウェブサイトを構築し、更新によって進捗を広く情報発信する。

・事業報告書を年度毎に全国の大学関連部門及び東海地域の医療医機関・自治体に配布することで、本事業の成果の普及が期待できる。

・事業成果を全国がんプロ協議会等で発表、関連する研究成果を学会等で発表し論文化する。

・本事業で開発する履修記録管理システム(電子ポートフォリオ)は、並走する地域医療教育事業「濃尾+A」と相まり、地域の医療人材の連帯感を醸成するプラットフォームになり、地域への貢献意欲を高めるとともに、生じうる困難に対して互いに補い合うピアサポートの効果が期待できる。大学と地域をつなぐバーチャルな学習環境は他大学・他地域が使えるプラットフォームに発展する可能性がある。

・名古屋大のJDP及びGAMEの国際ネットワークを介して本事業の教育プログラムを共有することにより、本事業の成果がグローバルに展開する可能性がある。

### ②事業の継続

事業終了後も大学間の連携及び全国的な組織との連携を維持し、恒常的にがん専門医療人材の養成を継続する。大学院コース及びインテンシブコースは各大学のがん医療・研究開発・普及のミッションや各県のがん対策推進計画の中で活用し継続性を担保する。東海がんプロセミナーは受講料等の自己資金、自治体との共同、寄附講座の活用、企業共催など外部財源を利用して継続する。

### ③第3期がんプロの継続状況 非該当

## 2. 年度別の計画

### (1) 年度別の計画

R5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 東海がんプロ協議会 (8月, 11月, 2月)</li> <li>② 大学院コース・インテンシブコース開始のための設備等整備 (8月～3月)</li> <li>③ 特任教員の雇用 (8月)</li> <li>④ 専用ホームページの開設 (9月)</li> <li>⑤ インテンシブコースの一部を予備的に開始 (9月)</li> <li>⑥ 専任事務職員の雇用 (8月)</li> <li>⑦ 「東海がんプロセミナー」開催 (11月, 2月)</li> <li>⑧ 専用電子ポートフォリオ運用を予備的に開始 (1月)</li> <li>⑨ 外部評価の実施 (2月)</li> <li>⑩ 市民公開講座 (3月)</li> <li>⑪ 最新の情報収集のため国内の各種学会への参加・ファカルティ・イノベーション(FD)実施</li> </ul>
R6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各大学において大学院コース開始 (4月)</li> <li>② インテンシブコース開始 (4月)</li> <li>③ 専用電子ポートフォリオ運用開始(4月)</li> <li>④ 東海がんプロ協議会 (5月, 8月, 11月, 2月 年4回)</li> <li>⑤ 東海がんプロセミナー開催 (5月, 8月, 11月, 2月 年4回)</li> <li>⑥ 市民公開講座(9月, 3月 年2回)</li> <li>⑦ 外部評価の実施(2月)</li> <li>⑧ 最新の情報収集のため国内外の各種学会への参加・FD実施</li> </ul>
R7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各大学において大学院コース・インテンシブコース開始 (4月)</li> <li>② 東海がんプロ協議会 (5月, 8月, 11月, 2月 年4回)</li> <li>③ 東海がんプロセミナー開催 (5月, 8月, 11月, 2月 年4回)</li> <li>④ 市民公開講座(9月, 3月 年2回)</li> <li>⑤ 外部評価の実施(2月)</li> <li>⑥ 最新の情報収集のため国内外の各種学会への参加・FD実施</li> </ul>
R8年度	①～⑥ 同上
R9年度	①～⑥ 同上
R10年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①～⑥ 同上</li> <li>⑦ 全体報告書作成</li> </ul>
R11年度 [補助期間 終了後]	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各大学において大学院コース・インテンシブコースを継続</li> <li>② 東海がんプロセミナーを継続</li> </ul>



## 総表

## 1. 参加大学の状況

拠点病院の指定やがんに特化した講座設置等に該当する場合は○を、補助事業期間中に指定取得や設置等を計画している場合は□を選択してください。（既に講座があり、追加を計画している場合には■を選択してください。）

大学名	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院	小児がん拠点病院	がんゲノム医療病院			がんに特化した講座				バイオバンク	大学ごとのR5補助金配分額(千円)
	都道府県	地域(高度型)	地域	地域(特例型)			特定領域	中核拠点	拠点	連携	薬物療法	放射線治療	緩和医療		
名古屋大学			○			○	○			○	○			□	55,670
岐阜大学	○								○	○	○		■	○	6,300
浜松医科大学		○							○	○	○		○		6,300
名古屋市立大学			○						○					○	2,300
藤田医科大学		○							○		○	○	○	○	2,300
愛知医科大学			○						○	○	○	○	○	○	2,300
名城大学										○					2,300

がんに特化した講座の名称	【名古屋】化学療法学・がん薬物療法学・量子介入治療学 【岐阜】臨床腫瘍学・次世代がん医療(令和7年予定)【浜松】放射線腫瘍学講座、腫瘍病理学講座、臨床腫瘍学講座【藤田医科】分子腫瘍学、生化学、腫瘍遺伝子制御学 【愛知医科】臨床腫瘍センター、放射線医学講座、緩和ケアセンター、疼痛医学講座【名城】腫瘍分子医学
バイオバンクの保存試料数(がん関係)	約1万人分(名古屋), 110人分(岐阜), 143人分(藤田医科), 460人分(名市大), 500人分(愛知医大)

## 2. 教育プログラム・コース一覧

## (1) 大学院正規課程コース

養成する職種に○、がん専門資格と連動している場合◎を選択

大学名	テーマ	教育プログラム・コース名	養成目標人数合計	養成する職種						医療職以外
				医師	歯科医師	薬剤師	看護師	その他の医療職	医療職以外	
名古屋大学	テーマ①	次世代がん医療	40	◎	○	○				
名古屋大学	テーマ①	次世代がん医療「がんTHP」	35				◎	○		
名古屋大学	テーマ②	がん予防推進	10	○	○	○	○	○	○	
名古屋大学	テーマ③	先進がん治療開発研究	50	○	○	○				○
岐阜大学	テーマ①	次世代がん医療	40	◎	○	○				
岐阜大学	テーマ③	新治療開発	25	○	○	○				○
浜松医科大学	テーマ①	次世代腫瘍医学	35	◎	○	○				
浜松医科大学	テーマ②	がん予防医学研究	10	◎	○	○	○	○		
浜松医科大学	テーマ③	新規がん治療開発	10	○	○	○				
名古屋市立大学	テーマ①	次世代がん医療	40	◎	○	○				
名古屋市立大学	テーマ③	新治療開発	35	◎	○	○				
藤田医科大学	テーマ①	次世代がん医療	40	◎	○	◎				
藤田医科大学	テーマ②	がん遺伝カウンセリング	10			○	○	○	○	○
藤田医科大学	テーマ③	データサイエンスに基づく新治療開発	10	○		○				○
愛知医科大学	テーマ①	次世代がん医療	15	○	○				○	
名城大学	テーマ①	次世代がん治療「薬学」	10			○				
			合計	415						

## (2) インテンシブコース ※コースワークで複数の科目等を履修するものとし、1日～数日間の講習会は除く。

大学名	テーマ	教育プログラム・コース名	養成目標人数合計	養成する職種						医療職以外
				医師	歯科医師	薬剤師	看護師	その他の医療職	医療職以外	
名古屋大学	テーマ①	次世代がん医療「東海がんプロ・名大」	40	○	○	○	○	○	○	○
名古屋大学	テーマ①	次世代がん医療「がんTHP」	40			○	◎	○		

名古屋大学	テーマ②	臨床遺伝「つまい遺伝塾」	40	◎	○	○	○	○	○
岐阜大学	テーマ①	次世代がん医療「東海がんプロ・岐大」	20	○	○	○	○	○	○
浜松医科大学	テーマ①	次世代がん医療「東海がんプロ・浜松医大」	20	○	○	○	○	○	○
名古屋市立大学	テーマ①	次世代がん医療「東海がんプロ・名市大」	20	○	○	○	○	○	○
藤田医科大学	テーマ①	次世代がん医療「東海がんプロ・藤田医大」	20	○	○	○	○	○	○
愛知医科大学	テーマ①	次世代がん医療「東海がんプロ・愛知医大」	20	○	○	○	○	○	○
名城大学	テーマ③	新治療開発「薬学」	40			◎			
合計			260						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋大学大学院医学系研究科（総合医学専攻）						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療コース（大学院正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師						
修業年限（期間）	総合医学専攻博士課程 4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院課程で放射線治療、核医学治療、神経ブロック、病理診断等を学び、学位取得後は地域に定着して多職種連携による集学的な治療・ケアなど、QOL向上や終末期医療を担う放射線治療医、麻酔科医、病理診断医。</li> <li>・大学院で臨床腫瘍学を系統的に学び、学位取得後は腫瘍循環器学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学等の学際領域にも対応できる医師、薬剤師。</li> </ul>						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主専攻科目 16単位（選択必修科目） セミナー10単位及び実験研究6単位 特徴あるプログラム<sup>※</sup>を4コース以上にわたり合計20回以上受講必修 <sup>※</sup>一定のテーマにそった連続講義で構成される学内教育プログラム</li> <li>・副専攻科目または広領域専攻科目から10単位以上（選択必修科目）</li> <li>・基礎科目 4単位（必修科目） 基盤医学特論 2単位 特論を15回以上受講 基盤医科学実習 2単位 ベーシックトレーニングを最低4コース履修（1コース 0.5単位）</li> <li>・いずれも担当教員と実地修練の担当者による論文指導を受けた上で、教授会が行う論文審査に合格する。</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主専攻科目（選択必修）：放射線治療学、量子介入治療学、麻酔・蘇生医学、臓器病態診断学、化学療法学、医療薬学等のがん治療を学び研究する科目より選択</li> <li>・特徴あるプログラム「次世代がん医療」15講義のうち10回以上を必須</li> <li>・基盤医科学実習ベーシックトレーニング「次世代がん医療」実習 2コース履修を必須</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医（放射線腫瘍学会・医学放射線学会）、認定病理専門医（病理学会）、ペインクリニック専門医（ペインクリニック学会）、がん薬物療法専門医（臨床腫瘍学会）の研修施設、がん専門薬剤師（医療薬学会）、緩和医療専門薬剤師（緩和医療薬学会）、がん薬物療法認定薬剤師（病院薬剤師会）の教育機関として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特徴あるプログラム「がんプロフェッショナル養成基盤推進プログラム」は第2がんプロで医学系研究科で開設し継続するプログラムであり、本コースではがん治療を系統的に学習できるよう大幅に再編成し、多職種チーム医療による集学的な治療・ケア、緩和医療・終末期医療、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学など学際領域を発展的に取り入れ、「次世代がん医療」として拡充する。</li> <li>・基盤医科学実習ベーシックトレーニングは基盤手法から最先端の研究手法まで幅広い研究手法を大学院生が習得できるプログラムであり、本コースではがん遺伝子パネル検査のエキスパートレベル（EP）参加、EP報告書作成、外来化学療法室実習、高齢者機能評価実習等を含む実習「次世代がん医療」を新たに設置する。</li> <li>・放射線治療医、神経ブロックを行う麻酔科医、病理診断医を学ぶ学生はがん治療学に強く関心を示すが従来は自習以外で系統的に学修することは困難であった。本コースによってがん治療学を学際領域を含めて系統的に学修できる。</li> <li>・講義をオンライン化してワンデマンド配信することで受講しやすい環境を整備する。</li> <li>・ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「医療人類学とバーチャル教育を活用した屋根瓦式地域医療教育（濃尾+A）」で行う地域に貢献する医師養成の教育ノウハウを有機的に共有する。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の申請に加わる担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるオンデマンド講義を行う。</li> <li>・本事業に特化した履修記録管理システム（電子ポートフォリオ）を用いて学習記録を蓄積し、他の学生や指導教員と地理的条件を超えてその学びを共有する。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	地域に定着して多職種連携によるがん医療を実践する医療人材。修了後も症例検討会にリモート参加できるよう3省2カ所ドライブに準拠した体制を整備する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限		8	8	8	8	8	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去4年間に放射線治療、麻酔、病理診断の大学院に11名（毎年度2-4名）が入学した。学際領域に新たに毎年4名を見込み、目標に毎年度8名に設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋大学大学院医学系研究科（総合保健学専攻）						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療「がんTHP」コース（大学院正規課程）						
対象職種・分野	看護師、放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師						
修業年限（期間）	総合保健学専攻博士前期課程 2年						
養成すべき人材像	多職種連携による集学的ながん治療・ケアを経験するがん患者と家族のウェルビーイングを支える看護師、理学療法士、作業療法士、放射線技師、臨床検査技師。集学的ながん治療・ケアでの各職業役割の高度な相互理解により、インターディシiplinaryモデルによる有機的ながんチーム医療を推進する中核となる人材。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了要件：がんTHP(Total Health Planner)コースの必修科目4単位、選択科目6単位以上、計10単位以上を履修し単位を取得する履修することで、大学院修了時に「がんTHP」として学内認定する。</li> <li>・履修方法：正規大学院科目として履修する。</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目：トータルヘルスプランナー特論(2単位)、トータルヘルスプランナー実践論(少人数多職種によるグループワークを含む)(2単位)の計4単位</li> <li>・選択科目：保健学セミナー(2単位)、コンサルテーション論(2単位)、生命倫理学(2単位)、がん看護病態生理学(2単位)、放射線腫瘍学特論(2単位)、医学物理学特論(2単位)、リハビリテーション療法学(2単位)等から4科目8単位以上 ※ただし、職種別に一部選択必修科目(2単位)を設ける</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	がん看護専門看護師(日本看護協会)、医学物理士(医学物理士認定機構)、看護師、放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トータルヘルスプランナー特論及びトータルヘルスプランナー実践論を新たに設置することで、既存のTHPコースの内容を大幅に発展拡充させ、多職種連携による集学的ながん治療・ケアを経験するがん患者と家族のウェルビーイングを支える次世代がん医療コースとして「がんTHPコース」を新設する。</li> <li>・1専攻に5医療職種の大学院生が所属し且つがん看護専門看護師といったがん臨床の高度実践者養成コースを併せ持つ大学院は全国的に稀有である。この特色を最大限に活用して5職種の大学院生が相互に交流しながら学ぶチーム医療教育を行い、医療チームの中で協働し患者中心の医療を推進する能力と、がん患者・家族のウェルビーイングを支える能力を培う(がん医療、がんとの共生)。</li> <li>・少子高齢社会における包括的な支援とがん医療・ケアとの融合により、ライフステージやがんの病期・治療期に依らず地域社会でのがんハイパーを包括的に支えるがんTHPとしての能力を培う(がんとの共生)。</li> <li>・講義をウェブ配信することで受講しやすい環境を整備する。</li> <li>・法令順守の下で放射線管理区域内で放射性同位元素を取り扱う実験・実習を行うために放射線管理システムを設置する。</li> </ul>						
指導体制	THP運営委員会により運営する。同委員会は本事業の申請に加わる担当教員、本事業で雇用する特任教員、がん看護専門看護師養成の担当教員、医学物理士養成の担当教員により構成する。委員の専門分野は看護科学、医療技術学、リハビリテーション療法学、ヘルスケア情報学など多岐にわたる。						
修了者の進路・キャリアパス	がん診療連携拠点病院等のがん治療の中核的病院、小児がん拠点病院、地域の総合病院や診療所、訪問看護ステーション等のがん患者・家族の療養を支える医療機関、地域包括支援センターや保健所等のがんを抱える生活者を支える機関等の様々な場で様々な時期のがんハイパーを支える実践者となり、多職種連携による集学的ながん治療・ケアを経験するがん患者と家族のウェルビーイングを支え、がん医療やがんとの共生を推進する一翼を担う。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限		5	7	7	8	8	35
受入目標人数設定の考え方・根拠	がん看護専門看護師コース2名、医学物理士コース3名、一般コース3名（同一機構である岐阜大学大学院の大学院生を含む）						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋大学大学院医学系研究科（総合医学専攻）						
教育プログラム・コース名	がん予防推進コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、保健師、薬剤師、管理栄養士、医療職以外						
修業年限（期間）	総合医学専攻博士課程 4年または総合保健学専攻博士前期課程 2年						
養成すべき人材像	大学院正規課程で予防医学、データサイエンス、メディカルAI等を学び、学位取得後はマルチオミクスと医療ビッグデータ等に基づくがん予防医療を推進する医師・専門家。						
修了要件・履修方法	<p>医学専攻：・主専攻科目16単位（選択必修）、セミナー10単位及び実験研究6単位  特徴あるプログラム※を4コース以上にわたり合計20回以上受講必修  ※一定のテーマにそった連続講義で構成される学内教育プログラム  ・副専攻科目または広領域専攻科目から10単位以上（選択必修科目）  ・基礎科目 4単位（必修科目）  基盤医学特論 2単位 特論を15回以上受講  基盤医科学実習 2単位 ベーシックトレーニングを最低4コース履修（1コース 0.5単位）</p> <p>総合保健学専攻：・臨床医学概論他（10単位）、医科学セミナー（8単位）、医科学実験研究（8単位）、医科学講義（2単位）、医学基盤実習（2単位）を含む計30単位を取得  ・いずれも論文指導を受けた上で、教授会が行う論文審査に合格する。</p>						
履修科目等	<p>医学専攻：主専攻科目（選択必修）：予防医学、がん記述疫学（愛知県がんセンター研究所）、がん分析疫学（同）等のがん予防を学び研究する科目より選択  ・特徴あるプログラム「がん予防推進」15講義のうち10回以上を必須  ・基盤医科学実習「ベーシックトレーニング」「がん予防推進」実習 2コース履修を必須</p> <p>総合保健学専攻：医科学セミナー及び実験研究は予防医学等を選択  ・医科学講義及び基盤医学実習は「がん予防推進」プログラム及び実習を必修</p>						
がんに関する専門資格との連携	社会医学系専門医（社会医学系専門医協会）認定施設（令和4年度3名受入）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学系研究科では腫瘍医学関連のコースを含めて13の大学院コース（特徴あるプログラム）を開講しており、招待講演を合わせ年間200コマ以上の特論講義、70コース以上のベーシックトレーニングを開講している。これら既存のプログラムの仕組みを利用して本事業のために新たにコースを設置する。</li> <li>・14番目の大学院コースとして、がん疫学・病因、がん疫学、スクリーニング、予防、実装科学、マルチオミクスと臨床情報に基づく医療ビッグデータや大規模疫学データの解析、データサイエンスとシステム生物学を取入れたプログラム「がん予防推進」を新たに設置する。</li> <li>・基盤医科学実習ベーシックトレーニングは基盤手法から最先端の研究手法まで幅広い研究手法を大学院生が習得できるプログラムであり、本コースではR入門、NGS解析入門、遺伝情報データベース検索、RNA-seq解析入門、Pythonを用いた医療データへの機械学習、遺伝統計学演習、バイオインフォマティクス等の実習を行う「がん予防推進」を新たに設置する。</li> <li>・社会人大学院生に配慮して講義をオンライン化・オンデマンド配信する。</li> <li>・医学系研究科が主幹校として行っている「保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト」事業「メディカルAI人材養成産学協働拠点AI-MAILs」と連携してがん予防医療に貢献できる人材を涵養する。</li> <li>・附属病院臨床研究の支援部門（ARO）である先端医療開発部データセンター及び附属病院メディカルITセンター（MIT）が行う教育事業と有機的に連携する。</li> </ul>						
指導体制	主専攻科目の担当教員、本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるオンデマンド講義及び実習を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	マルチオミクスと臨床情報に基づくがん予防医療を推進できる医師や専門家。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去3年間に予防医学等の社会医学系関連講座の入学者は年平均1名であった。広報勧誘活動による希望者増を見込み目標を毎年度2名に設定した。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋大学大学院医学系研究科（総合医学専攻）						
教育プログラム・コース名	先進がん治療開発研究コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師、医療職以外						
修業年限（期間）	総合医学専攻博士課程 4年						
養成すべき人材像	大学院正規課程で腫瘍学の基礎研究を学び、個別化医療を推進するため、分子標的薬やコンパニオン診断薬、がん免疫療法、遺伝子治療薬等の創薬研究や新たな治療法の開発を担う医師等の人材。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>主専攻科目 16単位（選択必修科目） セミナー10単位及び実験研究6単位 特徴あるプログラム<sup>※</sup>を4コース以上にわたり合計20回以上受講必修 <sup>※</sup>一定のテーマにそった連続講義で構成される学内教育プログラム</li> <li>副専攻科目または広領域専攻科目から10単位以上（選択必修科目）</li> <li>基礎科目 4単位（必修科目） 基盤医学特論 2単位 特論を15回以上受講 基盤医科学実習 ベーシックトレーニング<sup>※</sup>を最低4コース履修（1コース 0.5単位）</li> <li>いずれも担当教員と実地修練の担当者による論文指導を受けた上で、教授会が行う論文審査に合格する。</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>主専攻科目（選択必修）：腫瘍生物学、分子細胞免疫学、分子腫瘍学、腫瘍病理学等の抗腫瘍薬の創薬や新治療を研究する科目より選択</li> <li>特徴あるプログラム「<u>先進がん治療開発研究</u>」15講義のうち10回以上を必須</li> <li>基盤医科学実習ベーシックトレーニング<sup>※</sup>「<u>先進がん治療開発研究</u>」実習 2コース必須</li> <li>人を対象とする臨床研究は、参加施設の生命倫理委員会の承認を得た後に、関連するガイドラインに則り進める。公正研究・生命倫理・情報セキュリティ・利益相反に関する講義の受講を必須とする。</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	直接関連する資格はない						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学系研究科では腫瘍医学関連のコースを含めて13の大学院コース（特徴あるプログラム）を開講しており、招待講演を合わせ年間200コマ以上の特論講義、70コース以上のベーシックトレーニングを開講している。これら既存のプログラムの仕組みを利用して本事業のために新たにコースを設置する。</li> <li>特徴あるプログラムの既存「<u>がんサイエンス</u>」コースを分子標的薬やコンパニオン診断薬、がん免疫療法、CAR-T、遺伝子治療薬等、NGS（次世代シーケンシング）、遺伝統計学、メタゲノミクス、遺伝情報データベース検索などシステム生物学について系統的に学習できるよう大幅に再編成して「<u>先進がん治療開発研究</u>」として拡充する。</li> <li>基盤医科学実習ベーシックトレーニング<sup>※</sup>は基盤手法から最先端の研究手法まで幅広い研究手法を習得できるプログラムであり、新たにRNA-seq解析、Pythonを用いた医療データ機械学習等を含めた実習「<u>先進がん治療開発研究</u>」を設置する。</li> <li>講義をオンライン化してウェブ上で配信することで受講しやすい環境を整備する。</li> <li>臨床研究中核病院及び橋渡し研究支援機関として新治療法を開発する人材養成の環境が整備されている。附属病院臨床研究支援部門（ARO）である先端医療開発部が行う教育事業と連携する。令和5年4月現在医師主導治験6件（がん29件）、特定臨床研究60件（同2件）、CAR-T療法の再生医療等研究2件を実施中。</li> <li>参画大学間のネットワークを活用して研究情報の共有及び集約、若手研究者の研究室間の相互交流によって有機的な連携体制が期待できる。</li> </ul>						
指導体制	主専攻科目の担当教員、本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるオンデマンド講義及び実習を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	大学やがん専門施設で、分子標的薬やコンパニオン診断薬、がん免疫療法、遺伝子治療薬等の創薬研究や新たな治療法の開発を担う医師又は研究者。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		10	10	10	10	10	50
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去4年間に腫瘍生物学、分子細胞免疫学、分子腫瘍学、腫瘍病理学等がん関連講座に24名入学しており、新たに毎年2名を見込み、毎年度10名に設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療コース（大学院正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師						
修業年限（期間）	総合医学専攻博士課程 4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院課程で放射線治療、核医学治療、神経ブロック、病理診断等を学び、学位取得後は地域に定着して多職種連携による集学的な治療・ケアなど、QOL向上や終末期医療を担う放射線治療医、麻酔科医、病理診断医。</li> <li>・大学院で臨床腫瘍学を系統的に学び、学位取得後は腫瘍循環器学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学等の学際領域に対応できる医師、薬剤師。</li> </ul>						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目14単位（下記）、自由選択科目6単位以上を取得する。</li> <li>・特別研究6単位を取得する。</li> <li>・上記の合計30単位を取得し、学位審査に合格すること。</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目：放射線医学、麻酔科・疼痛医学、腫瘍病理学、がん関連学際的領域（循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、精神腫瘍学、老年腫瘍学等）及び頭頸部癌や皮膚癌等の希少癌の治療を行う分野を含め、がん治療を学び研究する科目より選択</li> <li>・次世代がん医療特論 15講義のうち10回以上を必須</li> <li>・次世代がん医療実習 2コース以上履修を必須</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会・医学放射線学会）、認定病理専門医（日本病理学会）、ペインクリニック専門医（日本ペインクリニック学会）、がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代がん医療特論及び次世代がん医療実習は正規の大学院科目である。</li> <li>・本コースで新たに設置する次世代がん医療特論は、東海国立大学機構として法人統合している名古屋大学で実施される特徴あるプログラム「次世代がん医療」コースと連携しつつ、岐阜県がん・生殖医療ネットワークを活用した妊孕性温存などライフステージ別にAYA世代のがんがハイパーの高度な教育を取り入れるなど、岐阜大学の強みを生かして独自に拡充する。</li> <li>・本コースで新たに設置する次世代がん医療実習は、同じ機構である名古屋大学で実施される基盤医科学実習ペインクリニックと連携しつつ、ペインクリニック（在籍専門医5名）、放射線治療（同3名）、分子病理診断（同7名）に関する実技又は研究手法のコースを追加するなど、岐阜大学の強みである分野を発展拡充する。</li> <li>・従来は放射線治療医、神経ブロックを行う麻酔科医、病理診断医を学ぶ学生はがん治療学に強く関心を示すが従来は自習以外で系統的に学ぶことは困難であった。本コースによってがん治療学を系統的に学修できるようになる。</li> <li>・岐阜大と名古屋大が連携して実施しているポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「医療人類学とバーチャル教育を活用した屋根瓦式地域医療教育（濃尾+A）」で行う地域に貢献する医師養成の教育ノウハウを有機的に共有する。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主専攻科目の担当教員、本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるセミナー講義及び実習を行う。</li> <li>・本事業に特化した履修記録管理システム（電子ポートフォリオ）を用いて学習記録を蓄積し、他の学生や指導教員と地理的条件を超えてその学びを共有する。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	地域に定着して多職種連携によるがん医療を実践する医療人材。修了後も地域にしながら受講できる環境を整備する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		8	8	8	8	8	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	岐阜県内のがん診療連携拠点病院は8か所あり、放射線治療、麻酔・疼痛、病理医を本プログラムで充足させるためには5年間で各分野毎年2名（5年間で3分野併せて合計30名）必要である。学際領域の受入れを見込み、本コース全体で毎年度8名を目標として設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻						
教育プログラム・コース名	新治療開発コース（大学院正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師、医療職医学						
修業年限（期間）	総合医学専攻博士課程 4年						
養成すべき人材像	大学院正規課程で腫瘍学の基礎研究を学び、個別化医療を推進するため、分子標的薬やコンパニオン診断薬、がん免疫療法、遺伝子治療薬等の創薬研究や新たな治療法の開発を担う医師等の人材。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門科目14単位(下記)、自由選択科目6単位以上を取得する。</li> <li>・ 特別研究6単位を取得する。</li> <li>・ 上記の合計30単位を取得し、学位審査に合格すること。</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門科目：腫瘍病理学、形態機能病理学分野、消化器外科・小児外科学分野、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野等の抗腫瘍薬の創薬や新治療を研究する科目より選択</li> <li>・ 新治療開発特論 15講義のうち10回以上を必須</li> <li>・ 新治療開発実習 2コース以上履修を必須</li> <li>・ 人を対象とする臨床研究を行う場合は、参加施設の生命倫理委員会の承認を得た後に、関連するガイドラインに則り進める。公正研究・生命倫理・情報セキュリティ・利益相反に関する講義の受講を必須とする。</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	なし						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新治療開発特論及び新治療開発実習は正規の大学院科目である。</li> <li>・ 新たに設置する新治療開発特論及び新治療開発実習は、東海国立大学機構として法人統合している名古屋大で実施される特徴あるプログラム「先進がん治療開発研究」及び基盤医科学実習「ネットワーク」「先進がん治療開発研究」とそれぞれ連携する。両大学の単位互換制度を利用する。</li> <li>・ 専門科目のがん研究では、岐阜大学の強みである以下の特色を活かして研究内容を充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岐阜薬科大学と連携した各種がんにおける病態解明と創薬研究</li> <li>・ 東海国立大学機構糖鎖生命科学研究所(iGCORE)と連携した糖鎖集合体からの病態解析と創薬研究がんの創薬研究</li> <li>・ 令和7年度に設置する「次世代がん医療講座」と連携した新薬治療開発</li> </ul> </li> <li>・ 講義をウェブ上で配信することで受講しやすい環境を整備する。</li> <li>・ 名古屋大や参画大学間とのネットワークを活用して研究情報の共有及び集約、若手研究者の研究室間の相互交流による有機的な連携体制が期待できる。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主専攻科目の担当教員、本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるセミナー講義及び実習を行う。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	大学やがん専門施設において、分子標的薬やコンパニオン診断薬、遺伝子治療薬等の創薬研究や新たな治療法の開発を担う医師又は研究者。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		5	5	5	5	5	25
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の腫瘍病理学分野の大学院入学生と臨床教室からの学内留学を合わせて年間3名の実績があり、毎年度3名に設定。						



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	浜松医科大学大学院医学系研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	次世代腫瘍医学コース（大学院正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師						
修業年限（期間）	医学専攻博士課程 4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学院正規課程で放射線治療、核医学治療、緩和医療、病理診断等を学び、学位取得後は地域の核となる施設に定着して、緩和的放射線治療、痛みの治療・ケア、核医学治療、病理診断などのがん医療の現場を担う人材。医師であれば放射線治療医、病理診断医、緩和医療専門医、総合診療医等。</li> <li>・ 大学院正規課程で体系的な臨床腫瘍学を学び、学位取得後は腫瘍循環器学や腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学等の学際的知識にも対応できる医師、薬剤師。</li> </ul>						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修科目24単位、選択科目6単位以上、計30単位以上を履修する。</li> <li>・ 担当教員と実地修練の担当者による論文指導を受けた上で、教授会が行う論文審査に合格する。</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必修科目：次世代腫瘍医学特論(2単位)、先端医学特論I(2単位)、セミナーA(6単位)、セミナーB(6単位)、実習(8単位)</li> <li>※ セミナーA、B、実習は放射線腫瘍学、病理診断学、ペインクリニック、臨床腫瘍学等のがん治療を学び研究する講座が開講する科目を選択履修する</li> <li>・ 選択科目：先端基礎医学特論(2単位) 病理診断学、緩和医療学、腫瘍循環器学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学ほか 3科目(6単位)以上</li> <li>※ がん関連学際領域の科目は名古屋大と連携する</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医(日本放射線腫瘍学会・日本医学放射線学会)、認定病理専門医(日本病理学会)、ペインクリニック専門医(ペインクリニック学会)、がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)の研修施設として認定。						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまで実施していた先端基礎医学特論を、多職種チーム医療による集学的な治療・ケア、緩和医療・終末期医療、放射線腫瘍学、病理診断学及び緩和医療学、がん関連学際領域に関する講義を加えるなど大幅に見直し新たに次世代腫瘍医学特論として発展的に改変する。研究能力を備えた医療者を養成する。</li> <li>・ 本事業で構築する大学間連携体制を活用して、名古屋大が開講する腫瘍循環器学や腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学等の学際領域の講義を受講する。</li> <li>・ 核医学治療はこれまで系統だてて学修することは困難であったが、本コースによって病棟実習を含めて統合的に学ぶことができる。</li> <li>・ 令和4年4月に新設された次世代創造医工情報教育センターが行うアントレプレナーシップに関する講義を受講し、がん医療に伴う社会課題の解決に挑戦できるデザイン思考やアントレプレナーシップの素養を有する人材を養成する。</li> <li>・ 講義をオンライン化しワンデマンド配信することで受講しやすい環境を整備する。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義はホストコホの状況に合わせて対面とオンラインのハイブリッドで実施する。</li> <li>・ 本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるホストコホ講義を行う。</li> <li>・ 本事業に特化した履修記録管理システム(電子ポートフォリオ)を用いて学習記録を蓄積し、他の学生や指導教員と地理的条件を超えてその学びを共有する。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	放射線治療、病理診断、核医学治療、緩和医療、終末期医療の実践及び教育に従事する人材として、地域のがん診療連携拠点病院、放射線治療を行う施設、病理診断部門での勤務を想定している。これらの人材が地域に定着するように、定期的な研究会、人事交流を実施している。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		7	7	7	7	7	35
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズから毎年度、放射線治療、麻酔、病理診断の大学院志望者を3名、学際領域の大学院志望者を4名と見込み、受入れ目標人数を35人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	浜松医科大学大学院医学系研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	がん予防医学研究コース（大学院正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、医学物理士、理学療法士、作業療法士、検査技師						
修業年限（期間）	医学専攻博士課程 4年 または 看護学専攻博士前期課程 2年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンスやデジタルAI技術を用いて、地域行政や教育機関と連携しながら、以下のがん予防医療や遺伝医療を推進でき、これらの教育も行う人材。 <ul style="list-style-type: none"> <li>a) 公衆衛生、衛生学、および疫学の研究による予防医療</li> <li>b) 先端的な画像診断学研究によるがん検診などの予防診断</li> <li>c) 遺伝学の研究による未発症者へのサバイブスや先制医療</li> <li>d) 遺伝性腫瘍家系員への意思決定支援や療養支援</li> </ul> </li> </ul>						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学専攻: 必修科目24単位、選択科目6単位以上、計30単位以上を履修する。</li> <li>・看護学専攻: 共通科目4単位以上、主領域の特論及び演習8単位、主領域以外の特論4単位以上、特別研究14単位、合計30単位以上を修得する。</li> <li>・いずれも担当教員と実地修練の担当者による論文指導を受けた上で、教授会が行う論文審査に合格し学位を取得する。</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学専攻: (必修科目) <u>がん予防医学特論(2単位)</u>、先端基礎医学特論(2単位)、健康社会医学セミナーA(6単位)、健康社会医学セミナーB(6単位)、健康社会医学実習(8単位); (選択科目) 疫学方法論(2単位)ほか 3科目(6単位)以上</li> <li>・看護学専攻: (必修科目) <u>がん遺伝/ゲノム看護(2単位)</u>、成人看護学特論(4単位)、成人看護学演習(4単位)、特別研究(14単位); (選択科目) 共通科目から2単位以上、成人看護学を除く特論4単位以上</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	臨床遺伝専門医(日本人類遺伝学会)、放射線診断専門医(日本医学放射線学会・日本医学放射線学会)の研修施設として認定。						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで実施してきた先端基礎医学特論(基礎医学, 公衆衛生, 遺伝学の最新知見を網羅した必須科目)の内容を大幅に見直し、臨床腫瘍学および社会医学に関する講義を加えることにより、がん予防医学に関する幅広い知識の習得を目指すがん予防医学研特論として新たに発展的に拡充する。</li> <li>・がん予防医学研特論では、データサイエンスやデジタルAI技術を基盤とした、多職種・多分野との連携による社会的課題の解決のための医療ビッグデータ解析の手法やデータ思考を学ぶことができ、予防医療、先端的な画像診断学研究によるがん検診、未発症者へのサバイブスや先制医療、遺伝性腫瘍家系員への意思決定支援や療養支援に生かすことができる。</li> <li>・看護学専攻でがん遺伝/ゲノム看護を新たな科目として設置し、がん遺伝学に基づいたがん予防を実践する人材を育成する。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義はポストコロナの状況に合わせて対面とオンラインのハイブリッドで実施する。</li> <li>・がん予防医学研特論は、令和4年に浜松医大に発足した次世代創造医工情報教育センターの教員による講義が含まれる。</li> <li>・本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるオンライン講義を行う。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	データサイエンスやデジタルAI技術を用いて、地域行政や教育機関と連携しながら、がん予防医療や遺伝医療を推進する。これらの教育も行う。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズから毎年度、医学専攻課程1人、看護学専攻1名の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を10人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	浜松医科大学大学院医学系研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	新規がん治療開発コース（大学院正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師						
修業年限（期間）	医学専攻博士課程 4年						
養成すべき人材像	・ 本学の特色である光学、ナノツ、イメージング技術などの先端的研究技術を基盤として、独創的な新しいがん治療法の開発研究を行う人材。						
修了要件・履修方法	・ 必修科目24単位、選択科目6単位以上、計30単位以上を履修する。 ・ 担当教員と実地修練の担当者による論文指導を受けた上で、教授会が行う論文審査に合格する。						
履修科目等	・ 必修科目：新規がん治療特論(2単位)、先端基礎医学特論(2単位)、分子生物学セミナーA(6単位)、分子生物学セミナーB(6単位)、分子生物学実習(8単位) ・ 選択科目：蛋白質研究法(2単位)ほか 3科目(6単位)以上 ・ 人を対象とする臨床研究は、参加施設の生命倫理委員会の承認を得た後に、関連するガイドラインに則り進める。公正研究・生命倫理・情報セキュリティ・利益相反に関する講義の受講を必須とする。						
がんに関する専門資格との連携	直接関連する資格はない						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	・ 医学専攻でこれまで実施してきた先端基礎医学特論(基礎医学, 公衆衛生, 遺伝学の最新知見を網羅した必須科目)の内容を大幅に見直し、がんに関連する基礎医学研究の分野を強化して新たに新規がん治療特論を設ける。 ・ 「光技術の医学応用とイメージング」及び「産学官連携によるものづくり」といった本学の特色を最大限に活かし、光先端医学教育研究センター、国際イメージングセンター、産学連携・知財活用推進センター等の研究関連施設との連携により、研究の発展や実臨床への実装を促進することが期待できる。 ・ さらに創薬アイデアを集約し、分子標的の同定、化合物スクリーニングへの展開、動物モデルを中心とした高次評価系の情報提供、助言等を行い医学研究を推進することを目的として設置された「浜松医科大学創薬基盤システム」を活用し、遺伝子治療薬や免疫療法などの独創的な新規がん治療開発を目指す。 ・ 参画大学間のネットワークを活用して研究情報の共有及び集約、若手研究者の研究室間の相互交流によって有機的な連携体制が期待できる。						
指導体制	・ 講義はポストコホの状況に合わせて対面とオンラインのハイブリッドで実施する。 ・ 本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるセミナー講義を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	本コースで学んだ光学、ナノツ、イメージング技術などの先端的研究技術を基盤に、大学やがん専門施設・研究所などで、独創的な新しいがん治療法の開発研究を行う研究者として、新規がん治療開発を行う。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズから毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を10人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療コース(大学院正規課程)						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師						
修業年限(期間)	4年						
養成すべき人材像	大学院で臨床腫瘍学を系統的に学び、がん発症メカニズム・疫学から病理診断、放射線診断・治療、チーム医療による集学的治療、がん関連学際領域まで幅広くがん治療を理解し、学位取得後はがん実臨床の現場が抱える問題に対応しながら、がん患者を包括的な視点から診療できるがん専門医療人材。						
修了要件・履修方法	専門科目、共通科目、特別研究にて合計30単位を修得し、かつ中間発表会を経たうえで、最終試験及び博士論文に合格すること。						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目:共通科目として「生体防御・総合医学講座Ⅱ:発がんメカニズムからがん関連学際領域、チーム医療の実践・がんプロフェッショナル養成コース(仮)」の選択を必須とし、15回の講義・演習(1講義1.5時間)のうち11回以上に出席(2単位)。</li> <li>・選択科目:生体情報・機能制御医学講Ⅲ(緩和医療)(2単位)、先進的がん診療特論・がんプロフェッショナル養成コース(仮)(2単位)ほか14科目</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)、がん専門薬剤師(日本医療薬学会)、薬物療法専門薬剤師(日本医療薬学会)の研修施設として認定。						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで包括的がん診療を学ぶ課程であった「生体防御・総合医学講座Ⅱ」を、多職種チーム医療による集学的な治療・ケア、緩和医療・終末期医療・サイロココロジ、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学など学際領域を発展的に取り入れその内容を大幅に再編成して「発がんメカニズムからがん関連学際領域、チーム医療の実践・がんプロフェッショナル養成コース」として拡充する。本コースは、がん患者を全人的、包括的に広い視野で診ることができる医療者の育成を主眼としている。</li> <li>・「先進的がん診療特論・がんプロフェッショナル養成コース」は、本事業で新規に設置する正規課程である。講義形式に加えて、がんゲノム診断、免疫チェックポイント阻害剤、CAR-T療法の実習を実臨床の現場でOJTとして行う機会を設ける。とくに免疫関連有害事象(irAE)、サイトカイン放出症候群(CRS)、免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群(ICANS)などの症例検討を行い、本学の強みであるがん免疫療法の領域に重点を置いている。また、外来化学療法室においてirAE対策に関する実臨床を学ぶ。</li> <li>・がんゲノム医療連携病院として、積極的にがん遺伝子パネル診断を実践し、国立がんセンター中央病院や名古屋大学病院のエキスパートパネルに参加することで、より実践的な教育効果が期待できる。</li> <li>・講義をオンライン化してオンデマンド配信することで、社会人大学院生が受講しやすい環境を整備する。全国的にも著名な外部講師を積極的に招聘する。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主専門科目の担当教員、本事業の担当教員ならびに学外招聘教員によるオンデマンド講義を行う。</li> <li>・本事業に特化した履修記録管理システム(電子ポートフォリオ)を用いて学習記録を蓄積し、他の学生や指導教員と地理的条件を超えて学びを共有する。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	大学及び地域の医療機関に定着して、がん実臨床の現場が抱える問題に対応しながら、がん関連学際領域にも対応できるがん専門医療人材として、がん患者を包括的な視点から診療する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		8	8	8	8	8	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	これまでの大学院志願者数及び入学コース調査から毎年度6人の希望者が見込まれるため、受入れ目標人数を8人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	新治療開発コース（大学院正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	大学院正規課程で腫瘍学の基礎研究を学び、がんゲノム医療・コンパニオン診断薬・個別化診療、がん免疫療法（免疫チェックポイント阻害剤含む）、CAR-T療法などの先進的ながん診断・治療に精通し、がんの創薬研究や次世代のがん診療の開発に寄与する人材。						
修了要件・履修方法	専門科目、共通科目、特別研究にて合計30単位を修得し、かつ中間発表会を経たうえで、最終試験及び博士論文に合格すること。						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目：共通科目として「先進的がん診療特論・がんプロフェッショナル養成コース（仮）」の選択を必須とし、15回の講義・演習（1講義1.5時間）のうち11回以上出席（2単位）。本コースにはがんゲノム診断病院実習（1.5時間）、がん免疫チェックポイント阻害剤病院実習（1.5時間）、CAR-T療法病院実習（1.5時間）を含む。</li> <li>・選択科目：生体情報・機能制御医学講Ⅲ（緩和医療）（2単位）、「生体防御・総合医学講座Ⅱ：発がんメカニズムからがん関連学際領域、チーム医療の実践・がんプロフェッショナル養成コース（仮）」（2単位）ほか14科目</li> <li>・人を対象とする臨床研究は、参加施設の生命倫理委員会の承認を得た後に、関連するガイドラインに則り進める。公正研究・生命倫理・情報セキュリティ・利益相反に関する講義の受講を必須とする。</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、がん専門薬剤師（日本医療薬学会）、薬物療法専門薬剤師（日本医療薬学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「先進的がん診療特論・がんプロフェッショナル養成コース」は、本事業において正規課程として新規に設置する。講義形式に加えて、本学附属病院において、がんゲノム診断、免疫チェックポイント阻害剤、CAR-T療法について実臨床の現場で実習を行い、実臨床から見た先進的がん診療の意義と課題を学ぶ機会を設ける。特に、免疫関連有害事象（irAE）やサイトカイン放出症候群（CRS）、免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群（ICANS）発症例などのメカニズムや対策などを症例検討を行う。</li> <li>・「発がんメカニズムからがん関連学際領域、チーム医療の実践・がんプロフェッショナル養成コース」は、これまでの既存科目に多職種チーム医療による集学的な治療・ケア、緩和医療・終末期医療、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学など学際領域を発展的に取り入れて大幅に再編成した新規科目である。</li> <li>・参画大学間のネットワークを活用して研究情報の共有及び集約、若手研究者の研究室間の相互交流によって有機的な連携体制が期待できる。</li> <li>・多発性骨髄腫などに対するCAR-T療法は全国的にもトップレベルの実績があり積極的にベットのサイトと研究室での経験が可能である。</li> <li>・講義をオンライン化してウェブ配信することで、社会人大学院生が受講しやすい環境を整備する。全国的にも著名な外部講師を積極的に招聘する。</li> </ul>						
指導体制	専門科目の担当教員、本事業の担当教員ならびに学外招聘教員によるオンデマンド講義を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	がんに関する専門資格を取得し、創薬研究や新治療の開発を行う大学やがん専門施設におけるチーム医療または研究チームのリーダーとして活躍が期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		7	7	7	7	7	35
受入目標人数設定の考え方・根拠	これまでの大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度6人の希望者が見込まれるため、受入れ目標人数を7人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	藤田医科大学大学院医学研究科（医学専攻）						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師						
修業年限（期間）	医学専攻博士課程 4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院課程で緩和的放射線治療、核医学治療、神経ブロック、病理診断等を学び、学位取得後は地域に定着してこれらの医療を担う人材。</li> <li>・大学院課程でがん治療を学び、学位取得後は多職種連携による集学的な治療・ケアなど、QOL向上や終末期医療を担う人材。</li> <li>・大学院課程で臨床腫瘍学を系統的に学び、学位取得後は腫瘍循環器学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学等の学際領域にも対応できる医師、薬剤師。</li> </ul>						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義6単位及び実習12単位、学位論文研究6単位、選択必修2単位、がんプロフェッショナルセミナー2単位及び医学研究プログラム2単位の計30単位を取得する。</li> <li>・担当教員による論文指導を受けた上で教授会が行う論文審査に合格する。</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義及び実習は放射線医学、外科・緩和医療学、病理診断学、腎臓内科学等のがん治療を学び研究する科目より選択する。</li> <li>・講義は次世代がん医療講義（放射線治療学、病理診断学、緩和医療学、臨床腫瘍学、腫瘍循環器学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学、チーム医療学等を含む体系的講義）2単位を必修とする。</li> <li>・実習はがん遺伝子パネル検査で行われるエキスパート実習を含む。</li> <li>・がんプロフェッショナルセミナーではがん研究の最先端トピックを学内外の講師に講演を依頼し、がん領域の最先端知識を学習する。</li> <li>・社会人大学院生が受講しやすいようにオンデマンド受講やオンライン受講を認める。</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	日本緩和医療学会、日本病理学会、日本ペインクリニック学会、日本臨床腫瘍学会、日本放射線腫瘍学会、日本がん治療認定機構、日本乳癌学会、日本婦人科腫瘍学会、日本肺癌学会、日本医療薬学会等の教育機関として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「次世代がん医療」コースとして新たに設置する。がん治療を系統的に学習できるように既存科目を大幅に見直し再編成するとともに、多職種チーム医療による集学的な治療・ケア、緩和医療・終末期医療、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学など学際領域を発展的に取り入れ拡充した次世代がん医療講義及びがんプロフェッショナルセミナーから構成される。臨床中心にしつつ、基礎医学実習から最先端の研究手法まで幅広く学べるという特色がある。</li> <li>・医師、歯科医師、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー、認定遺伝カウンセラーによる多職種チーム医療/集学的医療が行われる現場を通して実践教育を行う。放射線治療医、神経ブロックを行う麻酔医、病理診断医を目指す大学院生は、本コースによってがん治療学を系統的に学修できる。</li> <li>・学際領域では腫瘍循環器学は産学連携研究を基盤として、腫瘍腎臓病学は腎臓内科と連携して、老年腫瘍学は臨床腫瘍科が中心となり拡充する。</li> <li>・実習に、がん遺伝子パネル検査で行われるエキスパート参加や報告書作成、多職種チーム医療が行われている外来薬物療法セミナー見学等を取り入れる。</li> <li>・本学は本邦で初めて緩和医療学講座を開設した大学である。2つの緩和ケア病棟と緩和医療外来を備えた緩和医療センターとペインクリニックを有しており、難治性疼痛や精神的ケアなど、現場で顕在化している課題に対応する人材を養成する環境が整備されている。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員と学外所属の客員教員によるムバース教育を行う。</li> <li>・担当教員はそれぞれの分野で優れた業績と教育実績を有する人物である。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学では従来より、地域包括ケア中核センターを中心に、地域に定着して多職種連携によるがん医療を実践する医療人材を育成している。これら既存の枠組みを通じて修了者のキャリアパスを築くことができる。</li> <li>・オンライン講義やオンデマンド講義を利用することで、地域で活躍する人材が働きながら学習を継続できる環境が整備されている。</li> </ul>						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		8	8	8	8	8	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	藤田医科大学では例年40名程度の博士課程大学院生を受け入れている。このうち、5分の1の大学院生参加を目標に毎年度8名に設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	藤田医科大学大学院保健学研究所(R6年再編により医療科学研究科)						
教育プログラム・コース名	がん遺伝カウンセリングコース(正規課程)						
対象職種・分野	看護師、薬剤師、臨床検査技師等						
修業年限(期間)	医療科学専攻修士課程 2年						
養成すべき人材像	臓器横断的ながんの発生機構、病態、治療法、心理状態、社会的支援等を十分に理解した上で、遺伝性腫瘍の患者もしくは可能性がある患者やがん発症の可能性がある(at risk)血縁者への情報提供や心理社会的支援を行い、がんの発症予防にむけて個別対応ができる遺伝カウンセリング専門家を育成する。						
修了要件・履修方法	① 共通科目:10単位 ② 遺伝カウンセリング分野:27単位 ③ がんプロフェッショナルセミナー:15回 ④ がん遺伝子パネル検査実習(エキスパートパネル参加等):15回 以上の計37単位以上を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	生命倫理学2単位、臨床遺伝学2単位、コンサルテーション論2単位、分子遺伝学特論2単位、基礎人類遺伝学2単位、基礎人類遺伝学演習2単位、臨床遺伝学演習2単位、遺伝関連情報・情報検索方法演習1単位、遺伝医療と社会2単位、遺伝医療と倫理演習1単位、遺伝カウンセリング1単位、遺伝カウンセリング演習2単位、遺伝カウンセリング実習6単位、遺伝カウンセリング特別研究10単位、がんプロフェッショナルセミナー15回、がん遺伝子パネル検査実習15回						
がんに関する専門資格との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定遺伝カウンセラー認定養成課程(日本遺伝カウンセリング学会・日本人類遺伝学会)を設置する大学院である。</li> <li>遺伝性腫瘍専門医(日本遺伝性腫瘍学会)による指導を受けられる。</li> </ul>						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>東海地方で唯一の認定遺伝カウンセラー養成課程(日本遺伝カウンセリング学会と日本人類遺伝学会)を設置する大学院である。従来、全国の養成校では生殖細胞系列の遺伝性疾患を主に教育してきた。本コースでは基本的な遺伝学の知識やカウンセリング技術の習得に加え、臨床腫瘍学や遺伝性腫瘍の知識及び実践の場での教育を強化し、がん医療に習熟した認定遺伝カウンセラーを養成する。</li> <li>本事業で新たに設置したがんプロフェッショナルセミナーでは、がん研究の最先端トピックを学内外の講師に講演を依頼し、がん領域の最先端知識を学習する。</li> <li>がん遺伝子パネル検査実習ではがん個別化医療をOJTとして学習する。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝性腫瘍専門医、臨床遺伝専門医・指導医や認定遺伝カウンセラー指導者を中心に、本事業の担当教員を含め、先制的なゲム医療の活用や、個々の意思決定を尊重する対応力を指導する。</li> <li>大学敷地内の大学病院は、さまざまな遺伝性腫瘍の発症前診断にも対応する臨床遺伝科やがんゲム医療を行っており、幅広い症例の経験ができる。</li> <li>大学敷地内に設置されている大学病院での実習は、受講生の移動時間の負担も少なく、がん医療の専門的実践的な教育が受けられる。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定遺伝カウンセラーの認定試験に合格後は多職種によるチーム医療で臨床遺伝の問題に取り組むことができる。</li> <li>従来のコース実績より、本校大学院の受験生や就職は東海地域が多い。今後も同様であることが見込まれるために本地域への定着が期待される。</li> </ul>						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	現在、愛知県内の19のがん診療拠点病院中7施設に常勤の遺伝カウンセラーが勤務している。残り12施設に認定遺伝カウンセラーを最低1人ずつ配置することが当面の目標となる。この目標に対して、過去の大学院志願者数及び入学コース調査を勘案し、毎年度2人程度の受け入れを目標とした。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	藤田医科大学大学院医学研究科（医学専攻）						
教育プログラム・コース名	データサイエンスに基づく新治療開発コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師、薬剤師、医療職以外						
修業年限（期間）	医学専攻博士課程 4年						
養成すべき人材像	大学院正規課程でバイオインフォマティクスの解析手法とその応用について学び、臨床検体から得られる解析データと臨床パラメータを統合的に検討する能力を培う。その結果、治療標的となる分子やシグナルを明確にし、新たな治療手段を開発できる人材。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義6単位及び実習12単位、学位論文研究6単位、選択式セミナー2単位、がんプロフェッショナルセミナー2単位及び医学研究プログラム2単位の計30単位を取得する。</li> <li>担当教員による論文指導を受けた上で教授会が行う論文審査に合格する</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義はデータサイエンス講義を必修とする。</li> <li>実習は放射線医学、外科・緩和医療学、病理診断学、腎臓内科学等のがんの創薬や新治療を研究する科目より選択する。がん遺伝子パネル検査で行うエキスパートパネル実習を含む。</li> <li>がんプロフェッショナルセミナーではがん研究の最先端トピックを学内外の講師に講演を依頼し、がん領域の最先端知識を学習する。</li> <li>社会人大学院生が受講しやすいようにオンデマンド受講やオンライン受講を認める。</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	直接関連する専門資格はない。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>核となるデータサイエンス講義では、臨床から得られる各種データ（各階層のオミクス、画像・イメージング、電子カルテデータ）の活用方法及びその活用の際に必要なバイオインフォマティクス、機械学習、自然言語処理の知識・手技等を学修できる。これらは、新たながん治療方法や薬剤効果や予後の予測マーカー確立の成功率を高めるリバーstransレーショリサーチを推進するために不可欠である。また、データ管理及びその倫理的問題についての講義も含める。</li> <li>今後のがんの創薬や新治療にはデータサイエンスのリテラシーは不可欠であるため、がん医療研究センターデータ解析部門との連携により、臨床検体から得られる遺伝子変異や遺伝子発現の解析、画像・イメージングデータ、電子カルテデータを活用するために必要な機械学習、自然言語処理の解析手技を指導する。得られた解析結果に基づき、データの解釈、仮説創出を指導する。</li> <li>臨床開発・臨床試験では本学にある治験・臨床研究支援センターと連携する。令和5年4月現在jRCTに登録された本学が主導する特定臨床研究は53件で、うちがん関連は12件である。</li> <li>本学では、毎月生物統計家による臨床研究相談会を開催している。</li> <li>参画大学間のネットワークを活用して研究情報の共有及び集約、若手研究者の研究室間の相互交流によって有機的な連携体制が期待できる。</li> </ul>						
指導体制	主専攻科目の教員、本事業の担当教員、がん医療研究に特化したがん医療研究センターデータ解析部門の教員、学外招聘教員がオンデマンド講義及び実習の指導を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	臨床で得られるデータとその解析手技を俯瞰的に学ぶことで、現場の課題に対する解を直接見出すための臨床データドリブンな研究を構築できる人材として、基礎及び臨床の双方のデータサイエンス分野で活躍が期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	近年のがん研究においては臨床・基礎を問わず医療ビッグデータ解析が欠かせない。データサイエンスの専門家に対するニーズは高い。今後継続的に研究機関、病院において求人が発生すると考え毎年2人と設定した。						



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	愛知医科大学大学院医学研究科（臨床医学系専攻）						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療コース（大学院正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、その他の医療職						
修業年限（期間）	臨床医学系専攻博士課程 4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院でがん性疼痛・がん治療後疼痛に対する緩和的放射線治療・神経ブロック、病理診断等の専門的スキルを修得し、学位取得後は地域に定着して多職種連携による集学的な診断及び治療・ケアを担う放射線治療医、神経ブロックを行う麻酔科医、病理診断医。</li> <li>・大学院でがん治療学を系統的に学び、学位取得後は多職種チーム連携による全人的医療を推進し、集学的な治療・ケアによってがん患者のQOL向上や終末期医療を担うがん専門医療人材。</li> </ul>						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主専攻科目 14単位以上（選択必修）講義2単位及び実験研究12単位</li> <li>・副専攻科目 12単位（選択必修）講義4単位、演習4単位及び実験研究4単位</li> <li>・共通履修科目 4単位（必修科目） 臨床医学特論 2単位 15回以上受講（26回以上開講） 共通基礎科目（大学院必修セミナー）2単位 15回以上受講（48回以上開講）</li> <li>・合計30単位以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、最終試験及び医学研究科委員会が行う論文審査に合格すること。</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主専攻科目：統合疼痛医学、緩和・支持医療学、放射線医学、病理診断学、がん治療学のいずれか、または内科学、外科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、口腔外科学等のがん治療を学び研究する臨床医学系の科目より選択</li> <li>・副専攻科目：統合疼痛医学、緩和・支持医療学、放射線医学、病理診断学、がん治療学から複数選択（主専攻科目と重複しないこと）</li> <li>・共通基礎科目における「次世代がん医療」コースの受講を必須</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	緩和医療専門医（日本緩和医療学会）、放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会・日本医学放射線学会）、ペインクリニック専門医（日本ペインクリニック学会）、がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）、認定病理専門医（日本病理学会）等の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来設置している基礎医学専門研究者養成コース及び先端的臨床研究者養成コースに加え、新たに第三のコースとして「次世代がん医療」コースを設置する。</li> <li>・新たに設置する「次世代がん医療」コースでは、系統的ながん治療学に加え、集学的な治療・ケア、緩和医療・終末期医療、循環器腫瘍学や腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学など学際領域の他、腫瘍に関する代謝栄養学に基づく科学的に立証された専門的な治療を修得できる。</li> <li>・副専攻科目は、多職種チーム医療による集学的な治療・ケア、緩和医療・終末期医療を発展的に取り入れる。緩和ケアチーム院内回診や各科との病理診断カンファレンスへの参加、放射線治療計画や神経ブロックの見学、がん遺伝子パネル検査で行われるエキスパートパネルやカンサポードへの陪席等内容を大幅に拡充する。</li> <li>・放射線治療、神経ブロック、病理診断を学ぶ履修生は、本コースによってがん治療を学際領域を含めて系統的に学修することができる。一方、がん治療学や他の臨床医学系専攻の履修生は、従来は困難であった放射線治療、神経ブロック、病理診断の高度な専門知識・技術を学習できる。</li> <li>・講義を遠隔授業・動画配信等のDX化することで社会人大学院生にも受講しやすい環境を整備する。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主専攻科目担当教員及び本事業に関わる複数の教員が指導を行う。</li> <li>・DX化により履修生の時間・地理的条件をシームレス化して受講環境を整える。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	集学的な治療・ケアなど、がん患者のQOL向上や終末期医療を担う疼痛制御・緩和の専門家。修了後も地域にしながら受講できる環境を整備する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限		3	3	3	3	3	15
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去3年分のがん領域の志願者数及び入学コース調査から毎年度1～2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を3人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名城大学大学院薬学研究科						
教育プログラム・コース名	次世代がん治療「薬学」コース（正規課程）						
対象職種・分野	薬剤師						
修業年限（期間）	大学院薬学研究科博士課程 4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院薬学研究科博士課程で薬学を学び、学位取得後は地域に定着してチーム医療の中で集学的な治療・ケアなど患者のQOL向上や終末期医療を担う薬剤師。</li> <li>・本コースで臨床腫瘍学を系統的に学び、腫瘍循環器学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学等の学際領域にも対応できる薬剤師。</li> </ul>						
修了要件・履修方法	<p>次に定める方法により授業科目を履修し、4年間で30単位以上を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専修科目 4単位(必須)：専修分野の特論から1科目(30回受講)</li> <li>・専修あるいは関連科目 6単位(選択必修)： <ul style="list-style-type: none"> <li>2科目以上(関連科目：15回受講、各2単位)。</li> <li>※専修分野の特論と専修科目と合わせて3科目、10単位以上必ず履修</li> <li>※一定のテーマにそった連続講義で構成される学内教育プログラム</li> <li>※本コース履修者は「次世代がん治療コース(がん薬物療法学)」必修</li> </ul> </li> <li>・特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(各5単位4年間：20単位必須)</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専修分野：環境衛生科学・病態解析科学・薬物動態科学・医療情報科学・薬物治療科学特論より選択</li> <li>・関連科目：臨床薬学研修・海外臨床研修、医療英語・臨床腫瘍学・次世代がん治療開発コース(がん薬物療法学) ※本コース受講者必修</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	<p>参画施設である名古屋大はがん専門薬剤師(医療薬学会)、緩和医療専門薬剤師(緩和医療薬学会)、がん薬物療法認定薬剤師(病院薬剤師会)、愛知医科大はがん指導薬剤師(医療薬学会)、緩和薬物療法認定薬剤師(緩和医療薬学会)、藤田医科大はがん専門薬剤師(医療薬学会)、がん薬物療法認定薬剤師(病院薬剤師会)、緩和薬物療法認定薬剤師(緩和医療薬学会)の教育機関としてそれぞれ認定。</p>						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院博士課程で学位研究を行いながらも、学位取得後は臨床現場でがん医療を担う薬剤師を対象とするコースである。</li> <li>・第2期がんプロで設置してその後継続してきたがん薬物療法特論を大幅に見直し、多職種チーム医療による集学的な治療・ケア、緩和医療・終末期医療、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学など学際領域に加え、分子標的薬やコンパニオン診断薬、CAR-T療法や免疫チェックポイント阻害薬等の免疫療法に関する治療学を発展的に取り入れ系統的に学習できるように再編成して「次世代がん治療」コースとして拡充する。</li> <li>・臨床研究・教育機関として新たな治療法を開発する人材養成の環境が整備されている。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の担当教員ならびに学外招聘教員によるオンパス講義を行う。</li> <li>・本事業に特化した履修記録管理システム(電子ポートフォリオ)を用いて学習記録を蓄積するとともに、他の学生や指導教員と地理的条件を超えてその学びを共有する。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	<p>病院内のチーム医療や地域の保険薬局に所属して、集学的な治療・ケアなどがん患者のQOL向上や終末期医療を担う薬剤師。ゲム情報に基づく最新のがん個別化医療や学際領域に精通する薬剤師。</p>						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	<p>過去5年間、薬物治療科学や病態解析科学などの分野に5～6名入学しており、そのうち本コースを希望する学生(コース)を考慮して受入目標を毎年度2名に設定。</p>						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋大学大学院医学系研究科（総合医学専攻）						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療「東海がんプロ・名大」コース（インテンシブ）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、医学物理士、理学療法士、作業療法士、検査技師、ソーシャルワーカー、カウンセラー等（職種は問わない）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん診療に従事する医療専門職であり、がん診断・治療をはじめ、がん患者の症状緩和やがん経験者のケア、QOLの向上及び終末期医療を担い、さらにはがん経験者の身体的・精神的・社会的ケアや再発予防、がん予防医療および医療の現場で個別化医療も実践できる人材。これらの高度・先進的な知識・技術を修得した人材は、がんチーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統講義年間45回の2分の1以上且つ実習への1回以上の参加により修了。</li> <li>・系統講義は参画大学が得意とする分野を分担し共有する。実習は名古屋大で実施するか、希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。</li> </ul>						
履修科目等	<p>【系統講義】下記を履修する。なお、講義は参画大学間で共通。</p> <p>がん予防：がんの疫学・病因、疫学、検診・スクリーニング、予防他；がん医療：がん生物学、腫瘍免疫学、がん診断学・病期診断、治療学（基本概念、適応、有用性、効果判定方法、副作用評価、副作用対策、分子標的治療を含む薬物療法、免疫療法、外科治療、放射線治療、集学的治療、核医学治療、緩和医療、終末期医療、サイコオンコロジー、がんゲノム医療、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学、小児がん・AYA世代のがん、希少がん、チーム医療、がんリハビリテーション他；がんとの共生：がんサバイバーシップ、妊孕性の問題、在宅医療他</p> <p>【実習】下記を選択して出席する。</p> <p>がん遺伝子パネル検査エキスパートパネル（EP）参加とEP報告書作成、高齢者機能評価実習、遺伝カウンセリング「つまい遺伝塾」陪席、神経ブロック体験（シミュレーター使用）、免疫組織化学染色実習（研究用装置使用）、外来化学療法室運用・レジメン管理実習、放射性同位元素の取扱実習（放射線管理システム設置下の放射線管理区域内）等。</p>						
がんに関する専門資格との連携	直接関連する資格はない						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん医療に従事する専門職は、自らの専門領域の最新知識や情報を学ぶ機会があっても系統的ながん治療について自習以外で修学することは困難である。本コースでは職種や専門を問わず、がん予防、がん医療、がんとの共生について最先端の知識を系統的に学修できる。また、実習は専門領域でない分野の知識・技術を知る目的で行う。</li> <li>・本コースは代表校である名古屋大が運営を統括するが、参画大学は持ち回りで講義を担当する。系統講義を共有することで教育の効率化を図るとともに、東海地域全体の医療の質向上と均てん化が促進される。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義はオンラインで実施しオンデマンド配信を行う。ポストコホの状況によってオンライン配信・オンデマンド配信を含む対面講義を検討する。</li> <li>・本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるオンデマンド講義及び実習を行う。参画大学間で講義を分担することで、それぞれの大学のもつ強みを活用する。</li> <li>・実習は本学の医療資源やコースに合わせて実施するか、履修生の希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	高度・先進的な知識・技術を有する人材として、チーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		8	8	8	8	8	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	本コース修了に必須とする実習受け入れ能力を考慮して目標受入れ人数を8名とした。なお、系統講義にはかなりの聴講者数が見込まれる。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋大学大学院医学系研究科（総合保健学専攻）						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療コース「がんTHPコース」（インテンシブ）						
対象職種・分野	看護師、放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、薬剤師、医学物理士、管理栄養士、ソーシャルワーカー、心理士等 （大学院正規課程 次世代がん医療「がんTHP」コースの対象とならない者）						
修業年限（期間）	1年6か月						
養成すべき人材像	がん診療に従事する専門職であり、多職種連携による集学的ながん治療・ケアを経験するがん患者と家族のウェルビーイングを支える様々な医療職及び福祉職。集学的ながん治療・ケアでの各職業役割の高度な相互理解により、インターディシプリナリーによる有機的ながんチーム医療を推進する中核となる人材。						
修了要件・履修方法	修了要件：がんTHP(Total Health Planner)コースの必修科目4単位、選択科目6単位以上、計10単位以上の単位取得により「がんTHP」として認定する。 履修方法：科目履修生又は単位互換制度による大学院科目として履修する。						
履修科目等	必修科目：がんトータルヘルスプランナー特論(2単位)、がんトータルヘルスプランナー実践論(少人数多職種によるグループワークを含む)(2単位) 計4単位 選択科目：保健学セミナー(2単位)、コンサルテーション論(2単位)、生命倫理学(2単位)、がん看護病態生理学(2単位)、放射線腫瘍学特論(2単位)、医学物理学特論(2単位)、リハビリテーション療法学(2単位)等から4科目8単位以上						
がんに関する専門資格との連携	がん看護専門看護師(日本看護協会)、医学物理士(医学物理士認定機構)、看護師、放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、薬剤師、医学物理士、管理栄養士、ソーシャルワーカー、心理士						
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1専攻に5医療職種の大学院生が所属し、かつ、がん看護専門看護師といったがん臨床の高度実践者養成コースを併せ持つ大学院は全国的に稀有である。大学院課程であるかに関わらず、この特色を最大限に活用して、5職種の大学院生と共に相互に交流しながら学ぶチーム医療教育で、医療チームの中で協働し患者中心の医療を推進する能力と、がん患者・家族のウェルビーイングを支える能力を培う（がん医療、がんとの共生）。</li> <li>・少子高齢社会における包括的な支援とがん医療・ケアとの融合により、ライフステージやがんの病期・治療期に依らず地域社会でのがんサバイバーを包括的に支えるがんTHPとしての能力を培う（がんとの共生）。</li> <li>・講義をウェブ上で配信することで受講しやすい環境を整備する。</li> <li>・法令順守の下で放射線管理区域内で放射性同位元素を取り扱う実験・実習を行うために放射線管理システムを設置する。</li> </ul>						
指導体制	THP運営委員会により運営する。同委員会は本事業の申請に加わる担当教員、本事業で雇用する特任教員、がん看護専門看護師養成の担当教員、医学物理士養成の担当教員により構成する。委員の専門分野は看護科学、医療技術学、リハビリテーション療法学、ヘルスケア情報学など多岐にわたる。						
修了者の進路・キャリアパス	がん診療連携拠点病院等のがん治療の中核的病院、小児がん拠点病院、地域の総合病院や診療所、訪問看護ステーション等のがん患者・家族の療養を支える医療機関、地域包括支援センターや保健所等のがんを抱える生活者を支える機関等の様々な場が様々な時期のがんサバイバーを支える実践者となり、多職種連携による集学的ながん治療・ケアを経験するがん患者と家族のウェルビーイングを支え、がん医療やがんとの共生を推進する一翼を担う。						
受入開始時期	令和5年9月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		5	5	10	10	10	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	都道府県内の5つのがん拠点病院や地域でがん患者・家族を支える関連機関にがんTHPコースを修了した何らかの専門職がおり、第2次医療圏内でアクセスできることを目標に、今後6年間で30人以上を養成する。少人数多職種によるグループワーク演習を行うため受け入れ人数に上限を設定する。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋大学大学院医学系研究科（総合医学専攻）						
教育プログラム・コース名	臨床遺伝「つるまい遺伝塾」コース（インテンシブ）						
対象職種・分野	医師（歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、医学物理士、理学療法士、作業療法士、検査技師、ソーシャルワーカー、カウンセラー等も聴講できる）						
修業年限（期間）	医師は3年以上、その他は制限なし						
養成すべき人材像	遺伝医学と遺伝カウンセリングの高度・先進的な知識・技術をもち質の高い遺伝医療を提供する人材。特にがん遺伝子パネル検査レポートの中でゲム情報に基づくがん個別化医療を実践し、未発症者のサーベイランスや先制医療等の予防医療にも精通し実践する人材。医師は日本人類遺伝学会認定臨床遺伝専門医。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床遺伝専門医の取得を目的とする医師は、自ら担当または陪席した遺伝カウンセリング20例以上（周産期、小児期、成人期、腫瘍の各領域を含み、3症例以上は自ら担当）のレポート提出で修了認定。</li> <li>臨床遺伝専門医の取得を目的としない医師及び医師以外の履修生には、希望があれば修了認定を行う。「つるまい遺伝塾」主催の系統講義12回のうち2分の1以上の受講及び「つるまい遺伝塾」6回以上の出席により認定する。</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「つるまい遺伝塾」では遺伝カウンセリングを担当した医師による症例提示と検討会を毎月オンライン開催する。患者情報を扱うため3省2カ所オンラインに準拠する。</li> <li>遺伝カウンセリングは名古屋大学病院遺伝カウンセリング室で認定遺伝カウンセラーまたは臨床遺伝専門医同席で対面で行う。担当症例を「つるまい遺伝塾」で発表。</li> <li>系統講義は「つるまい遺伝塾」主催で毎月オンラインで開催する。</li> <li>系統講義は系統的な臨床遺伝学に加えて全ゲム解析を含めたがんの臨床遺伝学の講義を含む（全12コマ）。臨床遺伝専門医認定試験のレベルを目安にする。【講義内容】臨床遺伝学の基礎知識、染色体の構造と染色体異常、体細胞分裂・減数分裂、変異、DNA損傷修復、エピジェネティクス、メンデルの法則、顕性遺伝・潜性遺伝、ミトコンドリア遺伝、X連鎖遺伝、遺伝率、集団遺伝、家系図の描き方、カウンセリング法、出生前着床前診断、遺伝学の歴史、がん遺伝子パネル検査、サーベイランス等。</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	臨床遺伝専門医（日本人類遺伝学会）、遺伝性腫瘍専門医（日本遺伝性腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床遺伝専門医の資格取得を目指すコースである。本コースでは周産期・小児など本来は腫瘍を専門としない履修生が腫瘍に関連する臨床遺伝学のより高度・先進的な知識・技術を学ぶことができるのが特色である。</li> <li>講義をオンライン化してウェブ上で配信することで参画大学の医師を中心に、広く東海地域の医療者が参加できる。</li> <li>実症例の検討会によってより実践的な遺伝医療の教育ができる。</li> <li>看護師、薬剤師、認定遺伝カウンセラー及びそれを目指す人材、医療ソーシャルワーカーをはじめ遺伝医療のチーム医療を担うさまざまな医療職が参加できる。</li> </ul>						
指導体制	名古屋大学附属病院ゲム医療センター及び臨床遺伝専門医（担当15名）・指導医（2名）・認定遺伝カウンセラー（3名常勤）が運営の中核となる。						
修了者の進路・キャリアパス	臨床遺伝専門医（日本人類遺伝学会）、遺伝性腫瘍専門医（日本遺伝性腫瘍学会）を取得して、がんゲム医療連携病院をはじめ地域の医療機関で、広く臨床遺伝に従事しつつ、がんゲム医療と個別化医療の推進・啓発に貢献する。						
受入開始時期	令和5年9月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		8	8	8	8	8	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	2023年4月東海3県で専門医は約160名であるが、そのうち遺伝性腫瘍のカウンセリングを受入れる専門医は20名に過ぎない（学会HPより）。遺伝性腫瘍にも十分対応している専門医の養成を目指す。毎年の新規受入れ目標を8名と設定し、今後5年間で医師40名を受け入れる。さらに、本コース修了者の認定試験合格率70%を目指す（2022年度全体の合格率54%）。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療「東海がんプロ・岐大」コース（インテンシブ）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、医学物理士、理学療法士、作業療法士、検査技師、ソーシャルワーカー、カウンセラー等（職種は問わない）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん診療に従事する医療専門職であり、がん診断・治療をはじめ、がん患者の症状緩和やがん経験者のケア、QOLの向上及び終末期医療を担い、さらにはがん経験者の身体的・精神的・社会的ケアや再発予防、がん予防医療および医療の現場で個別化医療も実践できる人材。これらの高度・先進的な知識・技術を修得した人材は、がんチーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統講義年間45回の2分の1以上且つ実習への1回以上の参加により修了。</li> <li>・系統講義は参画大学が得意とする分野を分担し共有する。実習は岐阜大で実施するか、希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。</li> </ul>						
履修科目等	<p>【系統講義】下記を履修する。なお、講義は参画大学間で共通。</p> <p>がん予防：がんの疫学・病因、疫学、検診・スクリーニング、予防他；がん医療：がん生物学、腫瘍免疫学、がん診断学・病期診断、治療学（基本概念、適応、有用性、効果判定方法、副作用評価、副作用対策、分子標的治療を含む薬物療法、免疫療法、外科治療、放射線治療、集学的治療、核医学治療、緩和医療、終末期医療、サイロプロロン、がんゲノム医療、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学、小児がん・AYA世代のがん、希少がん、チーム医療、がんリハビリテーション他；がんとの共生：がんサバイブシップ、妊孕性の問題、在宅医療他</p> <p>【実習】下記を選択して出席する。</p> <p>がん遺伝子パネル検査エキスパートパネル（EP）参加とEP報告書作成、高齢者機能評価実習、遺伝カウンセリング「つるまい遺伝塾」陪席、神経ブロック体験（シミュレーター使用）、免疫組織化学染色実習（研究用装置使用）、外来化学療法室運用・レジメン管理実習、放射性同位元素の取扱実習（放射線管理システム設置下の放射線管理区域内）等。</p>						
がんに関する専門資格との連携	直接関連する資格はない						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん医療に従事する専門職は、自らの専門領域の最新知識や情報を学ぶ機会があっても系統的ながん治療について自習以外で修学することは困難である。本コースでは職種や専門を問わず、がん予防、がん医療、がんとの共生について最先端の知識を系統的に学修できる。また、実習は専門領域でない分野の知識・技術を知る目的で行う。</li> <li>・本コースは代表校である名古屋大が運営を統括するが、参画大学は持ち回りで講義を担当する。系統講義を共有することで教育の効率化を図るとともに、東海地域全体の医療の質向上と均てん化が促進される。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義はオンラインで実施しオンデマンド配信を行う。ポストコロナの状況によってオンライン配信・オンデマンド配信を含む対面講義を検討する。</li> <li>・本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるオンデマンド講義及び実習を行う。参画大学間で講義を分担することで、それぞれの大学のもつ強みを活用する。</li> <li>・実習は本学の医療資源やコースに合わせて実施するか、履修生の希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	高度・先進的な知識・技術を有する人材として、チーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		4	4	4	4	4	20
受入目標人数設定の考え方・根拠	本コース修了に必須とする実習受け入れ能力を考慮して目標受入れ人数を4名とした。なお、系統講義にはかなりの聴講者数が見込まれる。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	浜松医科大学大学院医学系研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療「東海がんプロ・浜松医大」コース（インテンシブ）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、医学物理士、理学療法士、作業療法士、検査技師、ソーシャルワーカー、カウンセラー等（職種は問わない）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん診療に従事する医療専門職であり、がん診断・治療をはじめ、がん患者の症状緩和やがん経験者のケア、QOLの向上及び終末期医療を担い、さらにはがん経験者の身体的・精神的・社会的ケアや再発予防、がん予防医療および医療の現場で個別化医療も実践できる人材。これらの高度・先進的な知識・技術を修得した人材は、がんチーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統講義年間45回の2分の1以上且つ実習への1回以上の参加により修了。</li> <li>・系統講義は参画大学が得意とする分野を分担し共有する。実習は浜松医大で実施するか、希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。</li> </ul>						
履修科目等	<p>【系統講義】下記を履修する。なお、講義は参画大学間で共通。</p> <p>がん予防：がんの疫学・病因、疫学、検診・スクリーニング、予防他；がん医療：がん生物学、腫瘍免疫学、がん診断学・病期診断、治療学（基本概念、適応、有用性、効果判定方法、副作用評価、副作用対策、分子標的治療を含む薬物療法、免疫療法、外科治療、放射線治療、集学的治療、核医学治療、緩和医療、終末期医療、サイロノロジー、がんゲノム医療、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学、小児がん・AYA世代のがん、希少がん、チーム医療、がんリハビリテーション他；<u>がんとの共生</u>：がんサバイブシップ、妊孕性の問題、在宅医療他</p> <p>【実習】下記を選択して出席する。</p> <p>がん診療改善のためのブレインストーミング実習、がん遺伝子パネル検査エキスパート実習、家族性腫瘍実習、希少がん難治がん実習、外来化学療法室実習</p>						
がんに関する専門資格との連携	直接関連する資格はない						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん医療に従事する専門職は、自らの専門領域の最新知識や情報を学ぶ機会があっても系統的ながん治療について自習以外で修学することは困難である。本コースでは職種や専門を問わず、がん予防、がん医療、がんとの共生について最先端の知識を系統的に学修できる。また、実習は専門領域でない分野の知識・技術を知る目的で行う。</li> <li>・本コースは代表校である名古屋大が運営を統括するが、参画大学は持ち回りで講義を担当する。系統講義を共有することで教育の効率化を図るとともに、東海地域全体の医療の質向上と均てん化が促進される。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義はオンラインで実施しオンデマンド配信を行う。ポストコロナの状況によってオンライン配信・オンデマンド配信を含む対面講義を検討する。</li> <li>・本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるウェビナー講義及び実習を行う。参画大学間で講義を分担することで、それぞれの大学のもつ強みを活用する。</li> <li>・実習は本学の医療資源やコースに合わせて実施するか、履修生の希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	高度・先進的な知識・技術を有する人材として、チーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		4	4	4	4	4	20
受入目標人数設定の考え方・根拠	本コース修了に必須とする実習受け入れ能力を考慮して目標受入れ人数を4名とした。なお、系統講義にはかなりの聴講者数が見込まれる。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療「東海がんプロ・名市大」コース（インテンシブ）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、医学物理士、理学療法士、作業療法士、検査技師、ソーシャルワーカー、カウンセラー等（職種は問わない）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん診療に従事する医療専門職であり、がん診断・治療をはじめ、がん患者の症状緩和やがん経験者のケア、QOLの向上及び終末期医療を担い、さらにはがん経験者の身体的・精神的・社会的ケアや再発予防、がん予防医療および医療の現場で個別化医療も実践できる人材。これらの高度・先進的な知識・技術を修得した人材は、がんチーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統講義年間45回の2分の1以上且つ実習への1回以上の参加により修了。</li> <li>・系統講義は参画大学が得意とする分野を分担し共有する。実習は名古屋市立大で実施するか、希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。</li> </ul>						
履修科目等	<p>【系統講義】下記を履修する。なお、講義は参画大学間で共通。</p> <p>がん予防：がんの疫学・病因、疫学、検診・スクリーニング、予防他；がん医療：がん生物学、腫瘍免疫学、がん診断学・病期診断、治療学（基本概念、適応、有用性、効果判定方法、副作用評価、副作用対策、分子標的治療を含む薬物療法、免疫療法、外科治療、放射線治療、集学的治療、核医学治療、緩和医療、終末期医療、サイコoncology、がんゲノム医療、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学、小児がん・AYA世代のがん、希少がん、チーム医療、がんリハビリテーション他；がんとの共生：がんサバイバースタイル、妊孕性の問題、在宅医療他</p> <p>【実習】下記を選択して出席する。</p> <p>がん遺伝子パネル検査（ESPC）（EP）参加とEP報告書作成、高齢者機能評価実習、遺伝カウンセリング「つるまい遺伝塾」陪席、CAR-T療法の実習等。</p>						
がんに関する専門資格との連携	直接関連する資格はない						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん医療に従事する専門職は、自らの専門領域の最新知識や情報を学ぶ機会があっても系統的ながん治療について自習以外で修学することは困難である。本コースでは職種や専門を問わず、がん予防、がん医療、がんとの共生について最先端の知識を系統的に学修できる。また、実習は専門領域でない分野の知識・技術を知る目的で行う。</li> <li>・本コースは代表校である名古屋大が運営を統括するが、参画大学は持ち回りで講義を担当する。系統講義を共有することで教育の効率化を図るとともに、東海地域全体の医療の質向上と均てん化が促進される。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義はオンラインで実施しオンデマンド配信を行う。ポストコホの状況によってオンライン配信・オンデマンド配信を含む対面講義を検討する。</li> <li>・本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるオンデマンド講義及び実習を行う。参画大学間で講義を分担することで、それぞれの大学のもつ強みを活用する。</li> <li>・実習は本学の医療資源やコースに合わせて実施するか、履修生の希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	高度・先進的な知識・技術を有する人材として、チーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		4	4	4	4	4	20
受入目標人数設定の考え方・根拠	本コース修了に必須とする実習受け入れ能力を考慮して目標受入れ人数を4名とした。なお、系統講義にはかなりの聴講者数が見込まれる。						



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	藤田医科大学大学院医学研究科（医学専攻）						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療「東海がんプロ・藤田医大」コース（インテンシブ）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、医学物理士、理学療法士、作業療法士、検査技師、ソーシャルワーカー、カウンセラー等（職種は問わない）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん診療に従事する医療専門職であり、がん診断・治療をはじめ、がん患者の症状緩和やがん経験者のケア、QOLの向上及び終末期医療を担い、さらにはがん経験者の身体的・精神的・社会的ケアや再発予防、がん予防医療および医療の現場で個別化医療も実践できる人材。これらの高度・先進的な知識・技術を修得した人材は、がんチーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統講義年間45回の2分の1以上且つ実習への1回以上の参加により修了。</li> <li>・系統講義は参画大学が得意とする分野を分担し共有する。実習は藤田医大で実施するか、希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。</li> </ul>						
履修科目等	<p>【系統講義】下記を履修する。なお、講義は参画大学間で共通。</p> <p>がん予防：がんの疫学・病因、疫学、検診・スクリーニング、予防他；がん医療：がん生物学、腫瘍免疫学、がん診断学・病期診断、治療学（基本概念、適応、有用性、効果判定方法、副作用評価、副作用対策、分子標的治療を含む薬物療法、免疫療法、外科治療、放射線治療、集学的治療、核医学治療、緩和医療、終末期医療、サイロノロジー、がんゲノム医療、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学、小児がん・AYA世代のがん、希少がん、チーム医療、がんリハビリテーション他；<u>がんとの共生</u>：がんサバイバーシップ、妊孕性の問題、在宅医療他</p> <p>【実習】下記を選択して出席する。</p> <p>がん遺伝子パネル検査エキスパートパネル（EP）参加とEP報告書作成、高齢者機能評価実習、遺伝カウンセリング「つるまい遺伝塾」陪席、神経ブロック体験（シミュレーター使用）、免疫組織化学染色実習（研究用装置使用）、外来化学療法室運用・レジメン管理実習、放射性同位元素の取扱実習（放射線管理システム設置下の放射線管理区域内）等。</p>						
がんに関する専門資格との連携	直接関連する資格はない						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん医療に従事する専門職は、自らの専門領域の最新知識や情報を学ぶ機会があっても系統的ながん治療について自習以外で修学することは困難である。本コースでは職種や専門を問わず、がん予防、がん医療、がんとの共生について最先端の知識を系統的に学修できる。また、実習は専門領域でない分野の知識・技術を知る目的で行う。</li> <li>・本コースは代表校である名古屋大が運営を統括するが、参画大学は持ち回りで講義を担当する。系統講義を共有することで教育の効率化を図るとともに、東海地域全体の医療の質向上と均てん化が促進される。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義はオンラインで実施しオンデマンド配信を行う。ポストコホの状況によってオンライン配信・オンデマンド配信を含む対面講義を検討する。</li> <li>・本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるオンデマンド講義及び実習を行う。参画大学間で講義を分担することで、それぞれの大学のもつ強みを活用する。</li> <li>・実習は大学の医療資源やコースに合わせて実施するか、履修生の希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	高度・先進的な知識・技術を有する人材として、チーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		4	4	4	4	4	20
受入目標人数設定の考え方・根拠	本コース修了に必須とする実習受け入れ能力を考慮して目標受入れ人数を4名とした。なお、系統講義にはかなりの聴講者数が見込まれる。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	愛知医科大学大学院医学研究科（臨床医学系専攻）						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療「東海がんプロ・愛知医大」コース（インテンシブ）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、医学物理士、理学療法士、作業療法士、検査技師、ソーシャルワーカー、カウンセラー等（職種は問わない）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん診療に従事する医療専門職であり、がん診断・治療をはじめ、がん患者の症状緩和やがん経験者のケア、QOLの向上及び終末期医療を担い、さらにはがん経験者の身体的・精神的・社会的ケアや再発予防、がん予防医療および医療の現場で個別化医療も実践できる人材。これらの高度・先進的な知識・技術を修得した人材は、がんチーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統講義年間45回の2分の1以上且つ実習への1回以上の参加により修了。</li> <li>・系統講義は参画大学が得意とする分野を分担し共有する。実習は愛知医大で実施するか、希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。</li> </ul>						
履修科目等	<p>【系統講義】下記を履修する。なお、講義は参画大学間で共通。</p> <p>がん予防：がんの疫学・病因、疫学、検診・スクリーニング、予防他；がん医療：がん生物学、腫瘍免疫学、がん診断学・病期診断、治療学（基本概念、適応、有用性、効果判定方法、副作用評価、副作用対策、分子標的治療を含む薬物療法、免疫療法、外科治療、放射線治療、集学的治療、核医学治療、緩和医療、終末期医療、サイコoncology、がんゲノム医療、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学、小児がん・AYA世代のがん、希少がん、チーム医療、がんリハビリテーション他；がんとの共生：がんケアハイブ、妊孕性の問題、在宅医療他</p> <p>【実習】下記を選択して出席する。</p> <p>がん遺伝子検査体験（EP）参加とEP報告書作成、高齢者機能評価実習、遺伝カウンセリング「つるまい遺伝塾」陪席、神経ブロック体験（シミュレーター使用）、免疫組織化学染色実習（研究用装置使用）、外来化学療法室運用・レジメン管理実習、放射性同位元素の取扱実習（放射線管理システム設置下の放射線管理区域内）等。</p>						
がんに関する専門資格との連携	直接関連する資格はない						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん医療に従事する専門職は、自らの専門領域の最新知識や情報を学ぶ機会があっても系統的ながん治療について自習以外で修学することは困難である。本コースでは職種や専門を問わず、がん予防、がん医療、がんとの共生について最先端の知識を系統的に学修できる。また、実習は専門領域でない分野の知識・技術を知る目的で行う。</li> <li>・本コースは代表校である名古屋大が運営を統括するが、参画大学は持ち回りで講義を担当する。系統講義を共有することで教育の効率化を図るとともに、東海地域全体の医療の質向上と均てん化が促進される。</li> </ul>						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義はオンラインで実施しオンデマンド配信を行う。ホスト校の状況によってオンライン配信・オンデマンド配信を含む対面講義を検討する。</li> <li>・本事業の担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるオンデマンド講義及び実習を行う。参画大学間で講義を分担することで、それぞれの大学のもつ強みを活用する。</li> <li>・実習は本学の医療資源やニーズに合わせて実施するか、履修生の希望があれば参画大学間の相互に受け入れを行う。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	高度・先進的な知識・技術を有する人材として、チーム医療のなかでそれぞれの職種の専門性を発揮しながら、第4期がん対策の3本柱を支える基盤となる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		4	4	4	4	4	20
受入目標人数設定の考え方・根拠	本コース修了に必須とする実習受け入れ能力を考慮して目標受入れ人数を4名とした。なお、系統講義にはかなりの聴講者数が見込まれる。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名城大学大学院薬学研究科						
教育プログラム・コース名	新治療開発「薬学」コース（インテンシブ）						
対象職種・分野	薬剤師						
修業年限（期間）	1年（最長5年 継続可）						
養成すべき人材像	分子標的治療やコンパニオン診断薬を用いる個別化医療、がん遺伝子パネル検査を用いるがんゲノム医療、遺伝子治療薬、免疫チェックポイント阻害薬やCAR-T療法等の免疫療法を、多職種連携チーム医療の現場で担う薬剤師。						
修了要件・履修方法	下記を修了要件とする。実地研修の成果の報告も必要とする。 ・系統講義年間30回の2分の1以上(15回)の出席 ・名城大薬学部および参画大学で行う実地研修(各2時間) 5回以上						
履修科目等	系統講義：分子標的薬やコンパニオン診断薬を用いる個別化医療、がん遺伝子パネル検査を用いるがんゲノム医療、遺伝子治療薬、免疫チェックポイント阻害薬やCAR-T療法等の免疫療法、免疫関連有害事象マネジメント、がん学際領域(腫瘍循環器学、衆生腎臓病学、老年腫瘍学等)。抗がん剤治療の副作用対策・支持療法、抗がん剤の薬物動力学、抗がん剤のDDS、抗がん剤の治療抵抗性対策、がん患者とのコミュニケーション学、抗がん剤の相互作用、スペシャルピデュレーションへの対応。 実地研修：薬剤調製、抗がん薬曝露対策、レジムン管理、服薬指導(症例報告の書き方)、病棟薬剤師業務全般、抗がん剤治療の薬薬連携、副作用管理、キャンサーボード、がん遺伝子パネル検査エキスパートパネル(EP)参加、CAR-T療法や光免疫療法の流れ、遺伝カウンセリング活動などに関する実地研修。						
がんに関する専門資格との連携	参画施設である名古屋大はがん専門薬剤師(医療薬学会)、緩和医療専門薬剤師(緩和医療薬学会)、がん薬物療法認定薬剤師(病院薬剤師会)、愛知医科大はがん指導薬剤師(医療薬学会)、緩和薬物療法認定薬剤師(緩和医療薬学会)、藤田医科大はがん専門薬剤師(医療薬学会)、がん薬物療法認定薬剤師(病院薬剤師会)、緩和薬物療法認定薬剤師(緩和医療薬学会)の教育機関としてそれぞれ認定。						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	・従来病院・保険薬局薬剤師は系統的にがん治療を学習することは困難であったが、本コースによって最新のがん治療の知識・技術を学修できる。 ・実習を取り入れることでより実践的な教育効果が期待できる。 ・講義をオンデマンド配信することで受講しやすい環境を整備する。 ・本コースは名城大学薬学研究科が運営を担当するが、全参画大学の薬剤師が講義・実習を担当するとともに、各大学に所属する薬剤師の参加を積極的に受け入れる。教育の効率化を図るとともに、東海地域全体の医療の質向上と均てん化が促進される						
指導体制	・名城大学薬学部をはじめ、参画大学医学部の附属病院で実地指導する。医師や認定看護師等の協力のもと多職種チーム医療の指導を行う。 ・本プログラムの担当教員ならびに学外招聘教員によるオンデマンド講義を行う。参画大学間で講義を分担することで、それぞれの大学のもつ強みを活用できる。						
修了者の進路・キャリアパス	日本医療薬学会、日本緩和医療薬学会、日本臨床腫瘍薬学会などの認定資格を取得し、高度・先進的な知識・技術を有する人材として、多職種連携チーム医療の一員としてがん医療の現場を担う。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		8	8	8	8	8	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	修了に必須とする実習受け入れ能力を考慮して目標受入れ人数を毎年度8名、合計40人と設定した。これまでの研修実績および入学ニーズ調査からも毎年度8人の志願者が見込まれる。						

# - 東海3県7大学連携がん専門医療人材教育プロジェクト -

# 東海がん専門医療人材養成プラン

Tokai-GannPro

Tokai-GannPro 運営体制

東海がんプロ協議会

外部評価委員会

がんプロ推進室

岐阜大学

名古屋大学

名古屋市立大学

名城大学

藤田医科大学

愛知医科大学

浜松医科大学

Tokai-GannPro

教育プログラム・コース

主幹大学

【名古屋大学 / 大学院医学系研究科】

次世代がん医療コース  
次世代がん医療「がん THP」コース  
がん予防推進コース、新治療開発コース  
東海がんプロ・名大コース（インテンシブ）  
次世代がん医療「がん THP コース」（インテンシブ）  
臨床遺伝「つるまい遺伝塾」コース（インテンシブ）

【岐阜大学 / 大学院医学系研究科】

次世代がん医療コース  
新治療開発コース  
東海がんプロ・岐大コース（インテンシブ）

【名古屋市立大学 / 大学院医学系研究科】

次世代がん医療コース  
新治療開発コース  
東海がんプロ・名市大コース（インテンシブ）

【浜松医科大学 / 大学院医学系研究科】

次世代腫瘍医学コース  
がん予防医学研究コース  
新規がん治療開発コース  
東海がんプロ・浜松医大コース（インテンシブ）

【愛知医科大学 / 大学院医学系研究科】

次世代がん医療コース  
東海がんプロ・愛知医大コース（インテンシブ）

【藤田医科大学 / 大学院医学系研究科】

次世代がん医療コース  
がん遺伝カウンセリングコース  
データサイエンスに基づく新治療開発コース  
東海がんプロ・藤田医大コース（インテンシブ）

【名城大学 / 大学院薬学系研究科】

次世代がん治療（薬学）コース  
新治療開発（薬学）コース（インテンシブ）

テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成  
・参加全7大学において「次世代がん医療コース」教育プログラムの実施



QOLの向上と終末期医療



地域に定着した医療



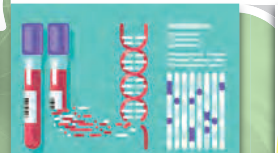
多職種チーム医療の推進



連携  
ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（濃尾+A）

テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成

・参加4大学において「がん予防コース」教育プログラムの実施



がん臨床遺伝学の探求



個別化医療の拡充



連携  
AI-MAILs  
メディカル AI 人材養成  
産学協働拠点 (AI-MAILs)

テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

・参加6大学において特徴ある「新治療開発コース」教育プログラムの実施



先端医学研究の推進



がん新薬治療開発



臨床研究中核病院  
橋渡し研究支援機関



連携  
iGCORE  
糖鎖生命科学連携  
ネットワーク型拠点 (iGCORE)